

新井克志助教授
退官記念業績集

防衛医科大学校 形成外科

2002年

新井克志助教授
退官記念業績集

防衛医科大学校 形成外科

2002年



新井克志助教授近影 平成14年1月



1999 Asian Pacific Conference of Thermology 座長



1999 Asian Pacific Conference of Thermology 懇親会



カンファランス 真剣な症例検討の最中



総回診 ベットサイドで



光嶋勲先生特別講義後の記念写真
(左から、水野、南部、扇、大竹、光嶋、石川(浩)、山本、新井、勝崎、千々和)



小耳症手術 肋軟骨形成に集中する



中央手術室にて 熱心な手術指導



学会の帰り、故田中角栄元首相の生家(新潟)を訪ねて
(左より、新井、小倉、長沢)



部長を務める医大弓道部の学生達と

目 次

| | | |
|--------|-------|----|
| 巻頭言 | | 1 |
| 略 歴 | | 2 |
| 御挨拶 | | 5 |
| 御祝辞 | | 11 |
| 研究業績 | | 23 |
| 著述紹介 | | 90 |
| 同門の先生方 | | 93 |
| あとがき | | 95 |

巻 頭 言

新井先生は昭和53年に防衛医大に奉職されてから現在にいたるまでの23年間の長きにわたり、当院形成外科の中心的存在として診療、教育、研究に従事していらっしゃいました。また優秀な形成外科医たる自衛隊医官を数多く育成されたのは言うまでもありません。従って、防衛医大における先生のご業績は、まさに防衛医大形成外科の歴史そのものであり、今回先生の業績集が上梓されるにいたった事は、当院の発展に関わってきた大学人として大変喜ばしい記念事業と思います。

私も先生のご指導をいただいた者の一人ですが、20年ほど前に、泌尿器科の患者で女性仮性半陰陽の症例の外陰形成術をお願いしたことがありました。その時の先生の鄭重な御指導と素晴らしいメス捌きに感服したのは、つい先日のような気がいたします。その患者が結婚されいまだ私のところに通院されておりますので、診察するたびにそのことを思い出します。本来の正常な形態を再現し、その機能を少しでも回復させようとする形成外科医の熱意を垣間見た感じがいたしました。さらに先生は、大学人としての多忙な生活の合間に、明治維新という時代の歴史のロマン、とくに坂本竜馬の生き方に共感され、文筆活動を通して啓蒙に努め、またミャンマー自由化の戦士、アウン・サン・スーチーさんのためにもご尽力されていらっしゃるという、人間的にも大変魅力のある方だと常々敬愛申し上げております。良き医師は、患者にとって全人的な存在であることが望ましいことは言うまでもありません。まさに新井先生は知、情、意ともに優れた外科医と言えます。この意味で、この立派な業績集は、先生の防衛医大における医師としての仕事の集大成ではありますが、この間の医療活動にどれほど多くの患者さんが救われ、また感謝しているかを、新井先生のあとに続く若い形成外科の先生方が、その行間から感じ取っていただければ、業績集発刊の意義が弥増すものと思います。

最後に、この上梓に携われた山本先生をはじめとする教室員の方々に感謝いたします。

早川正道

形成外科部長(兼任) 泌尿器科学教授

新井克志先生 略 歴



- 昭和 11 年 8 月 埼玉県浦和市(現さいたま市)生まれ
- 昭和 38 年 3 月 日本医科大学 卒業
- 昭和 38 年 4 月 東京警察病院 実地修練生
- 昭和 39 年 4 月 東京女子医科大学心臓血圧研究所 医員
- 昭和 41 年 4 月 東京警察病院形成外科
- 昭和 42 年 4 月 東京大学形成外科 助手
- 昭和 49 年 11 月 医学博士号授与
- 昭和 50 年 1 月 東京大学形成外科 講師
- 昭和 50 年 1 月 同 副科長
- 昭和 53 年 1 月 防衛医科大学校 皮膚科 講師
- 昭和 63 年 5 月 同 救急部 形成外科担当講師
- 平成 6 年 7 月 日本医科大学 形成外科 客員教授
- 平成 6 年 10 月 防衛医科大学校 救急部 形成外科担当助教授
- 平成 13 年 4 月 同 形成外科 助教授
- 平成 14 年 3 月 同 定年退官

所属学会

日本形成外科学会評議員 国際形成外科学会
日本サーモロジー学会理事 日本熱傷学会評議員 日本毛髪外科学会理事
日本救急医学会 日本レーザー学会 日本頭蓋顎顔面外科学会

研究テーマ

ケロイド・肥厚性瘢痕の発生機序解明とその治療

退官の御挨拶

退官にあたって

新井克志

このたび防衛医科大学校形成外科を定年退職することになりました。思い起こしてみますと昭和39年、一年間のインターンのあと東京女子医科大学心臓血圧研究所に心臓外科医として勤務、これが私の医者としての第一歩でした。以来、心臓外科医、形成外科医として約40年をすごしてまいりました。

この間、日本の心臓外科のパイオニアであられた東京女子医大元教授 榊原仟先生、また強力なリーダーシップにて日本の形成外科に基礎を確立した東京警察病院元院長・形成外科部長 大森清一先生、私に形成外科への目を開かして下さった東京女子医大形成外科前教授 平山峻先生、さらに東京大学形成外科前教授 福田修先生には、それぞれ厳しく、暖かく、やさしく御指導いただいたに留まらず、医者として、人間としてのあり方のようなことも学ばせていただき、心より感謝いたしております。特に東京大学形成外科における11年間、福田先生には形成外科の全くの基礎から、口唇口蓋裂、小耳症などの高度の技術を要する先天異常の治療まで懇切丁寧にご教示いただきました。これにより形成外科医として自信のようなものを持つことができるようになりました。また、東大形成外科在任中、身に余るような責任ある立場にもご推薦していただき有難く思っております。

さてその後、防衛医大に赴任となったのでありますが、着任から昨年の念願の形成外科独立にいたるまでの経緯、紆余曲折はまさに私の形成外科医としての半生そのものでした。日本の形成外科黎明期に形成外科医を目指し、その後防衛医大に赴任して以来、本学から形成外科の火を消してはいけないとこの間自分なりに打ち込んできたつもりでおります。これまで

の苦勞と喜びを、この場をかりて後進に伝えておきたい。若干愚痴っぽくなってしまふところもあるかもしれませんが、そのあたりは去り行く老兵の小言と思って聞き流していただければ幸いです。

私がこの防衛医大に赴任いたしましたのは、開院まもなくの頃でした。当初は皮膚科教室の所属でしたが、はりきって赴任したことを覚えております。というのは、当時の皮膚科の藤田教授(故人)が形成外科を作ろうとなされていたからでした。しかしながら、いろいろなことがその後次々と起こったのでした。まさにドラマという感じでした。当時の皮膚科教室は藤田教授と助手の服部先生を中心とした数人の医師がいるのみで非常に静かなものでした。そのなかで服部先生が黙々と仕事をなされていたのが印象に残っております。その頃、藤田教授が以前から招聘しようとしていた方が結局断念されたということで、私を助教授にするという話をいただきました。目指す形成外科にとって順調なすべり出しでした。無論、有難くお受けするつもりでした。しかしその後、藤田教授からあるお話がありました。とある大学の皮膚科教室で人事交代があり、その成り行きしだいではその教官が本校に赴任したい旨を打診しておられるということでした。私は即座に「私の方は形成外科ができればいいのですから、構わないですよ。」と調子よく言ってしまったものでした。その後、予想に反してその教官はわれわれのもとに異動してまいりました。私のおっちょこちょいの性格が招いたことでした。今振り返ってみますと、これから組織を立ち上げてゆくべき責任者としては、手に入れたチャンスは決して手放してはいけなかった、といえるのかもしれませんが。なぜなら、このことが後に形成外科を専攻した後進の先生方に、結果として大変なご苦勞をかけることになってしまったからです。

この頃の卒業生にとって、形成外科の人気は上々で、私なりに手ごたえを感じていました。症例も多く、手術の予約も4～5ヶ月待ちに達するほどでした。藤田教授がご都合でお辞めになったあと、後任として、当時の東大紛

争で大変なご苦勞をなされた久木田教授が東大を定年退官なされて赴任してられました。しかし、久木田教授の皮膚科医としてのお考えと、われわれの考える形成外科の間には残念ながら溝が存在していました。私たちとしては常に皮膚科と形成外科が協力して仲良くやっていけたらと強く願っていただけに残念でした。これにより、卒業生が形成外科を選択することができないような状況になってしまいました。また地区病院や部隊の医務室などにすでに出向していた先生たちが形成外科の研修医、専修医としては戻れなくなりました。今思うとこの頃はまさに“形成外科、冬の時代”。当時の形成外科を専攻しようとした卒業生には大変気の毒なことで、今でも私の力不足がまねいたことと申し訳ない気持ちでいっぱいです。そんな中で、当時の救急部三村教授が、形成外科を救急部の中に迎えてくれたのでした。この頃はまた、当時の東京女子医大形成外科の平山峻教授が私をご心配してくださり、大変なご配慮を頂きました。

その後は、三村前教授、ならびに一貫して形成外科にご理解をいただいていた尾形元学校長、さらに元管理担当副校長の関先生が、防衛医大に形成外科がないのはおかしい、しっかりとした形成外科を作らねばということから強力なご支援を下さり、救急部のなかに始めて公式に「形成外科担当副部長」というポジションが確保されました。こうしてそれまで日陰の身であった形成外科に少しずつ陽の光があたり始めたのでした。そうして行くうち、ついに昨年、形成外科独立の業務計画が本庁より認められ、晴れて独立の運びとなった次第です。人には弱者に対して可愛そうに、何とかしてあげたい、応援してあげたいと純粹に思う心をもった方がいます。本学には幸いにもそのような方々が少なからずいらして助けてくださったからこそ、私たちは何とかここまで来られました。それらの方々にこの場をもって、心から感謝を申し上げる次第です。

私は少しまえになりますますが、親しい友人たちによく話していたことですが、

防衛医大形成外科に“素晴らしい先生”が喜んで来ていただける状況ができたなら、“旬”を過ぎた私は、その方に後を託してリタイアすると話していました。結局その時期が延びに延びて今になってしまいました。何はともあれ、最後にこのような状況が作られたことは大変嬉しく、一ノ渡学校長をはじめとする皆様のご支援によるものと感謝しております。私としましては、この防衛医大に形成外科をつくる一翼を担わせていただけたことを、またその運命のようなものに感謝したい気持ちです。長年目指してきたことがついにゴールに達成し、つくづく続けてきて良かったと思っております。

さて、これからのことですが、日本のみならず、世界には病気で苦しんでいる人たち、いろいろな理由で暗く沈んでいる人たち、絶望的になっている人たちが大勢おります。このような人たちの顔を明るくしてあげること、笑顔が浮かぶようにしてあげること、このようなことが現在の私にとって最もやりがいのある仕事のような気がしております。私たちの I.P.F. (International Peace Fleet; 坂本竜馬の dying message「世界の海援隊」の英訳)、まだまだ小さな力ですが、医療の面で、また政治経済の面でこのようなことをやっていけたらと思っております。

最後になりますが、産声をあげたばかりの防衛医大の形成外科、一人歩きにはまだまだです。皆様の変わらぬご支援をお願いいたします。また医局の先生方には、臨床に優れ、また学問的で、明るく楽しく和気藹々とした防衛医大形成外科を作っていただくことを願ってやみません。

長い間、本当にありがとうございました。

御 祝 辞





新井先生のご退官に寄せて

防衛医科大学校 学長

一ノ渡 尚道

新井先生、24年間にわたる防衛医科大学校におけるご勤務、お疲れさまでした。また、先生のご在職中いろいろと懇意にして戴き、ありがとうございました。

先生と親しくお付き合いをして戴くようになりましたのは、確か昭和54年頃、小料理屋『さなえ』でお会いしたときからだと記憶しております。私が昭和52年に防衛医大へ参りまして間もなくの頃、友人の形成外科医〇君から、「自分のよく知っている新井先生が防衛医大の形成外科に行くことになったということを知ったので、その際にはよろしく」との話がございました。その1年くらい後に、偶然に『さなえ』で先生とお会いしましたが、そのようなこともあり、お会いした当初から旧い友人と再会したときのような気分でした。

国の厳しい財政事情の影響もあり、防衛医大は長い間、新規の事業等についてはそれが大規模のものであれ小規模であれ、実現させるには極めて厳しい状況にあります。このようなことから、形成外科学の診療部としての独立もなかなかメドを立てられないままに、長い時間が経過して参りました。独立した医局も診察室もない中での長年のご苦勞は、言葉では言い表せないほどのものではなかったかと思われまます。

昨年になりやっと、形成外科診療部が実現することになりましたが、これはすべて、先生の長年のご苦勞のたまものと言っても過言ではないと思います。しかし残念ながら、教官の増員については現状では極めて厳しく、形成外科の皆様には今後もお当分の間は辛い思いをおかけすることになることから、これからは先生のご指導を仰ぎつつ、一步一步ではありますが形成外科診療部門を確かなものとして参りたいと思っております。

また、先生には医学以外のいろいろなことも教わりました。殊に、アウン・サン・ス



一チー、坂本竜馬、田中角栄等の生き方についての先生の熱のこもったお話しは、思わず身を乗りだして聞き入ってしまいました。

私が学校長に就任してからも、先生のご期待にあまりお応えできないままに今日に至ってしまっていることは、私にとりましてとても辛いことなのですが、先生の防衛医大形成外科にかけた思いとご苦勞のほどは決して無駄にしないよう、これからも心掛けていきたいと思っております。

これからはご家族も含めてご自身をもっと大事になさって、その上でいろいろな領域でさらにご活躍ください。

長い間お疲れさまでした。



新井先生のご退官にあたって

東京警察病院 形成外科

福田 修

新井先生、定年でのご退官おめでとうございます。私も定年の経験者、今になってみると、これからの自分の好きな道を歩んで、改めて人生をエンジョイ出来ることは素敵だと実感しています。従って、おめでとう、ご苦労様でした、と心からお祝い申し上げます。

新井先生が若かりし頃の思い出ですが、先生と初めて出会ったのは、昭和42年4月でした。恩師大森清一先生の定年ご退官に伴う人事の一環でしたが、病院地下の古くて狭い形成外科医局のソファで、新井先生と小原一則先生に会った情景を今も思い出します。以来10年間、東大形成外科で苦楽を共にしました。苦楽といっても苦労の方が多かったと言うのは、折悪しく学園紛争がたけなわになり始めた頃であったからです。各医局や研究室が全共闘に封鎖されるなど荒れた雰囲気になり、先生には大変気の毒な思いをさせていただきました。その中にもあっても、先生はひたすら真面目に、形成外科の中核として活躍してくれました。一本気のある芯の通った人柄で、どんどん新しいことに挑戦してゆく気概をもっていました。光凝固法やサーモメーター、遊離複合移植や同種移植と多岐にわたりました。皮弁血行の研究のために皮膚管を作っていました。家兎に皮膚管を作る装置を開発、折しも形成外科学会総会で、アイデア発表という新しい企画の募集がありました。第一回とあって多数のアイデアが集まりましたが、新井先生が「簡易 tube 作成器」を発表したところ、満場がどよめいたことを思い出します。投票の結果、新井先生が一位をとったことは言うまでもありません。電頭もコツコツとやっていたし、ケロイドの発生機序についてはユニークな議論を展開、新治療に結びついて来たのであります。



というような次第で、新井先生はすぐれた臨床家としてのみならず、研究者としても常に前進を続けてきました。本当にご苦労さまでした。新井先生の性格からして、退官後もきわめて真面目に仕事を継続して行かれるであろうと思いますが、これからは責任者としてのストレスから大分開放されますので、どうかのびのびとした第3の人生を送られることを祈ります。きっとまたすばらしいアイデアが生まれることでしょう。



新井克志助教授退官記念への寄稿

日本医科大学 学長

浅野伍郎

新井克志先生が現職をご退官になられるとのこと、誠におめでとうございます。私と新井先生は日本医科大学に入学以来、同期の親友としてお付き合い致しております。

新井克志先生は昭和 38 年日本医科大学を卒業され、東京警察病院での勤務を経て、昭和 53 年より防衛医科大学の皮膚科教室から現在の形成外科にいたる間、形成外科領域の教育・研究・診療に従事して来られました。先生のご専門は形成外科領域でも特に顔面の先天異常、組織移植、人工皮膚、ケロイドなどを専門とされ多くの症例について手術に取り組んで来られました。先生はこのように皮膚科・形成外科と関連した広い領域で臨床医として優れた多くの業績を残しておりますが、その過程で卓越した多数の形成外科医も育てて来られました。

これまでの研究発表を拝見いたしますと、関連施設との共同研究も多く、そのご活躍ぶりが推察されます。また先生は母校日本医科大学では形成外科学教室で客員教授を勤められ、学生教育や共同研究推進にご尽力下さいました。先生は学生時代から誠実で、現在では忙しい教育・研究・臨床の合間には坂本竜馬、田中角栄、アウン・サン・スーチー女史についての熱い思いのこもった論説を歴史研究、学と文芸に執筆投稿され、高い評価を受けております。

先生のこのような臨床医としての活躍、大学病院での医療、教授としての学生や医師の教育に果たされた役割は大きかったと確信いたします。私も母校に残っている同期性の一人として先生のこれまでの教育者、そして形成外科医としてのご活躍とご功績に改めて敬意を表します。まだまだ若さみなぎる先生にはこれからもご健勝でおられ、さらなるご活躍を祈念申し上げます。



恩師 新井克志先生のご退官にあたって

筑波大学臨床医学系 形成外科教授

中山凱夫

私は、所謂“大学紛争”の世代であり、混乱に紛れまがりなりにも卒業はしたものの、大学や医局とは全く関係がなく、地方の病院で外科医として数年を過ごしていた。消化器、一般外科医として、やや惰性に流れる日々となりつつあった頃に、一念発起して形成外科を目指そうと考え、当時の東大形成外科に入局した。

そこで、お会いしたのが新井克志先生との初めての出会いである。その頃は、福田修、添田周吾、新井克志、小原一則、平賀義雄、坂東正士の錚々たる先生方と、研修生として、許梅川(故人)、山畑阿良太の両先生がおられた。非常に和やかな雰囲気であったが、小所帯であり新入医局員にも、各先生方の個性が良くわかった。それぞれが個性的であったが、なかでも新井先生はユニークさが目立っていた。当時のナース達からは親しみを込めて“克ちゃん”と呼ばれていた。また、皆様方も感じられていることだが、先生は昔から現在と余り変わらない顔貌と雰囲気を持ち主でもあった。当時が老成していたと言うことではなく、年下の私からみても“万年青年”であり、また、“若さを感じさせる情熱”を唇裂、ケロイドの治療などに傾けられ、それらについてもいつも熱っぽく語りかけてこられたことを、今でも鮮やかに思い出せる。新人の私にも手取り、足取りの指導をされながらも、その“熱さ”は変わらなかった。

その後、お互いに別な施設で働くようになって20数年が経過している。学会などでお会いするが、先生は一つも変わらないのに、定年退官を迎えてしまった。私の薄くなった髪と老眼を考えれば致し方な無いのであろう。

無事、ここまで好きなことを生業として来られたことをお祝いするとともに、その変わらない情熱を傾ける先がこれからも何かの形で続くことを願って止まない。

おめでとうございます。



新井克志客員教授の御退官を記念して

日本医科大学形成外科 主任教授

百束比古

私が日本医科大学を卒業したのは1975年であり、直ちに形成外科に興味を抱いて故文入先生のおられた皮膚科学教室に内弟子待遇で入局させていただきました。そして、学会に参加したり論文を読んだりするうちに、日本医科大学出身の先輩形成外科医が結構おられることがわかりました。そのお一人である新井先生は当初、東大の講師をされておられ、その肩書きからは堅物の先生を想像していました。しかし実際何かの機会に直にお目にかかれることがありましたが、失礼乍ら肩書きのイメージと全くかけ離れた純朴なお人柄に一寸拍子抜けしたことを覚えています。

私がまだ3年目位の頃一度お招きして小耳症の手術を見せて頂いた時はその素晴らしい結果に驚嘆しました。一方、大分後になりますが、私が派遣病院に赴任中の会津若松で一杯おつき合いさせてもらったことがあります。その時の先生のビールの飲まれ方は、アルコール依存症の私でさえついていくことができないスピードでした。お話は決して酒席にありがちな柔らかいものではありませんが生真面目にご自身の信念を述べられるという感じで圧倒され傾聴しました。先生は終生「嘗ての書生」のような青臭い信条を保っておられる希有の方であったと思います。失礼な表現かも知れませんが、それこそが先生の誰からも慕われ尊敬されるお人柄の理由だと思えます。

この10年程日本医科大学形成外科学教室の客員教授をお願いして系統講義など担当頂きましたが、先生ならではの豊富な症例供覧を交えた授業は学生の評価も高く、今回を最後とするのは誠に残念であります。現在、先生のお育てになられた優秀な形成外科医を二人わが教室の構成員として拝借させて頂いており感謝に堪えません。



今後も尊敬すべき先達同窓として日本医科大学形成外科学講座に対して貴重なお助言ご鞭撻をお願いいたします。併せて先生のご健康とますますのご活躍祈念申し上げます。



新井先生から学んだこと

岡山大学大学院医歯学総合研究科

形成再建外科教授

光嶋 勲

新井先生のイメージは温厚、高潔、常に患者さんに優しい最良の治療を目指す、決して若手を叱らない、最高の師匠、指導者です。新井先生との初めての出会いは東大形成外科入局時でした。当時先生は講師で、福田修初代教授の懐刀として医局員を指導されていました。私は卒後 2 年目の駆け出しでした。25 年前の当時すでにアキレス腱部の皮膚欠損にまだ発表されていない calcaneal flap をされていたのを記憶しています。新井先生はオールラウンドにすべての領域をこなす現在では希少価値となった形成外科医です。その後すぐに先生は防衛医大に移られ、私は筑波大に移ったのですが、東京地方会での防衛医大の演題はアイデアに富む多く手術術式、実験でした。その中でもサーモグラフィーで穿通動脈を識別する方法を先生は世界で始めて発表されました。これが穿通枝皮弁の草分けとなり現在の穿通枝皮弁の臨床応用が可能となったと思います。

“新井の形成外科”はかつて東京女子医大心臓血圧研究所と一般外科で研修された外科を基盤とした形成外科です。このため対象患者が私と近かったせいかわ私は 10 年前から防衛医大で非常勤講師として学生さんへの講義と医局の先生方に自分の手術法を説明させていただいてきました。学生は熱心でその質問レベルはきわめて高く講義をするのが楽しみでした。また講義後の食事会も楽しみにしていました。これは医局の先生方(時に他科の先生、学生)との会話ですが、新井先生から多くのことをお教えいただきました。先生は多くのことに博学で、特に政治に精通しておられ、坂本竜馬、小佐野賢治、田中角栄など日本の政界の黒幕、多くの歴史事実の背景の話を面白くお教え下さいました。私にとって大きな収穫であったのは医学者として学問と教育に対する情熱を教わったことです。



先生は実験を通じて知見を重ね自分の学説を証明することに現在でも情熱を持っておられます。常に先を見ておられました。これまでになされたケロイド・肥厚性癬痕の電顕観察を基盤とした膨大な仕事は、先生が生涯医学者であることを示しています。また先生は最高の指導者です。若い先生方に本物を見せたい。最高の指導をしたい。能力を最大限に引き上げてあげたいということをモットーにしておられます。医局員のアイデアを尊重されています。このような姿勢なので医局は防衛医大で最も人気ある科で新入医局員が多いとお聞きしています。

新井先生、長きに渡り防衛医大での診療治療とご指導ありがとうございました。私を含めて先生のモットーとされる高い理想を持った多くの形成外科医が育ちました。先生の思想と技術は今後さらに多くの後輩に受け継がれるものと思います。私の現在の目標は次の言葉です。“新井先生のような指導者になりたい。”

研究業績

論文

著書

学会発表

特別講演

シンポジウム

学会主催

その他



BIBLIOGRAPHY



論 文

林久恵, 倉光秀麿, 乃木道夫, 岸一夫, 新井克志, 工藤誠二, 新堀茂:
術後感染症
東京女子医科大雑誌 34: 762-765 (1964)

太田八重子, 倉光秀麿, 山本勲, 新井克志, 野口尚子:
東京女子医科大外科教室における過去 10 年間の高齢者急性腹症に
関する統計的観察
東京女子医科大雑誌 35: 594-600 (1965)

新井克志, 福田修:
形成外科領域における医用サーモグラフィー、サーモメーターの適応
形成外科 11: 239-250 (1968)

福田修, 添田周吾, 塩谷信幸, 新井克志, 小原一則:
形成外科領域とリリペン
Clinical Report 2: 91-93 (1968)

添田周吾, 新井克志, 小原一則, 滝沢利明:
形成外科治療の基本的手段 (その 10)
一頭蓋部の腫瘍、熱傷、瘢痕性禿髪の手術—
皮膚科の臨床 10: 847-857 (1968)

新井克志, 福田修, 東博彦:
心肥大をきたした Klippel-Trenaunay-Weber 症候群のアンギオ
グラフィについて
外科 31: 54-62 (1969)

福田修, 新井克志, 小原一則:
胸部皮弁による頸部食道再建術
形成外科 12: 231-238 (1969)

新井克志, 福田修:
形成外科領域におけるサーモグラフィー
医科器械学会誌 39: 48-57 (1969)

BIBLIOGRAPHY



- 新井克志, 福田修, 添田周吾, 小原一則:
Tube および Flap に対する Thermography, Thermometer の適応
形成外科 12: 277-285 (1969)
- 小原一則, 福田修, 添田周吾, 新井克志:
切除縫合のすすめ
形成外科 13: 134 (1970)
- 新井克志, 福田修:
Split thickness skin graft の取り方と植え方
形成外科 13: 331-337 (1970)
- 新井克志, 福田修, 添田周吾, 小原一則:
重症電撃症による頭蓋欠損例
形成外科 13: 429-434 (1970)
- 福田修, 新井克志, 小原一則:
肉芽面に対する open skin grafting
形成外科 14: 183-188 (1971)
- 新井克志, 福田修:
陳旧性顔面骨折について
形成外科 14: 316-324 (1971)
- 新井克志, 福田修:
簡易 tube 作製器
形成外科 14: 330-334 (1971)
- 坂東正士, 福田修, 添田周吾, 新井克志, 小原一則, 平賀義雄:
Von Recklinghausen 氏病の治療
—主に顔面の pachydermatocele について—
形成外科 15: 366-378 (1972)
- 新井克志, 福田修, 秋山太一郎:
Mesh 状 silicon 布の応用
形成外科 15: 447-453 (1972)

BIBLIOGRAPHY



福田修, 新井克志:

唇裂手術における人中形成の経験
形成外科 16: 355-371 (1973)

福田修, 新井克志, 坂東正士:

Striptanon の使用経験
外科治療 30: 219-225 (1974)

新井克志, 福田修, 添田周吾, 中山凱夫, 徐正桢, 桜井靖久, 渥美和彦:

いわゆる collagen 製人工皮膚の臨床的応用
形成外科 17: 405-413 (1974)

新井克志: 熱傷の腎臓におよぼす影響についての電子顕微鏡的研究

日本災害医学会誌 22: 965-975 (1974)

新井克志, 福田修:

埋没耳の形態的分類とその手術法について
形成外科 17: 502-509 (1974)

福田修, 新井克志, 小原一則, 坂東正士:

小耳症の再建術 一第一編 デザインと肋軟骨移植—
形成外科 17: 463-483 (1974)

新井克志, 許梅川, 徐正桢, 福田修:

唇裂鼻を含めたいわゆる小鼻孔の手術方法について
形成外科 18: 205-209 (1975)

新井克志: 熱傷の腎臓におよぼす影響についての超微形態学的研究

一糸球体および近位尿細管の変化を中心に—
日本災害医学会誌 23: 280-292 (1975)

福田修, 新井克志, 小原一則:

小耳症の再建術 一第二編 肋軟骨の採取と framework の組立て—
形成外科 18: 685-695 (1975)

新井克志, 福田修, 徐正桢, 李泰権:

形成外科領域における光凝固療法の応用
形成外科 18: 702-708 (1975)

BIBLIOGRAPHY



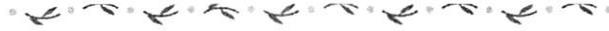
- 新井克志, 福田修, 坂東正士, 秋山太一郎:
Silicone mesh を用いた neurofibroma による眼瞼下垂の治療経験
形成外科 18: 709-711 (1975)
- 山田敦, 福田修, 添田周吾, 新井克志, 小原一則, 平賀義雄, 坂東正士:
先天性耳垂裂の検討
形成外科 19: 171-175 (1976)
- 坂東正士, 平賀義雄, 新井克志, 小原一則, 中山凱夫, 許梅川, 山田敦, 福田修,
添田周吾, 丸山正薫:
Bag prosthesis による乳房再建
形成外科 19: 261-267 (1976)
- 李泰権, 新井克志, 福田修, 浅野伍朗:
Porcine skin graft の病理組織学的研究
熱傷 2: 309-314 (1977)
- 新井克志, 李泰権:
唇裂児の鼻孔周辺部の治療に関する二、三の試み
形成外科 21: 32-36 (1978)
- Lee T K, Arai K, Asano G:
Experimental investigation of stored skin grafts at low
temperature.
Low Temperature Medicine 14: 31-35 (1978)
- Arai K, Fujita K, Lee T K:
On Morphological basis of formation of the micro circulatory
system in re-composite grafts.
防衛医科大学校誌 4: 9-18 (1979)
- 藤田恵一, 石橋明, 新井克志, 服部晃一郎:
点状植毛術、術式の検討
日本美容外科学会誌 18: 13-23 (1979)

BIBLIOGRAPHY



- 新井克志, 藤田恵一, 李泰権, 矢部熹憲:
唇裂、口蓋裂患者に対する computerized tomography の応用について 一特に高度症例における合併奇型の Screening として—
形成外科 22: 719-724 (1979)
- 新井克志, 矢部熹憲:
乳幼児唇裂、口蓋裂患者の computerized tomography の撮影条件に関する検討
医学のあゆみ 112: 461-466 (1980)
- 藤田恵一, 新井克志:
アンダーム軟膏の熱傷に対する臨床試験結果
基礎と臨床 14: 272-278 (1980)
- 新井克志, 藤田恵一, 浅野伍朗, 相原薫, 李泰権:
ケロイドの発育に関する血管系の役割について
防衛医科大学校誌 5: 8-14 (1980)
- 新井克志, 藤田恵一:
ポリウレタンフィルム加コラーゲン製人工皮膚について
医学のあゆみ 113: 1048-1050 (1980)
- 新井克志, 藤田恵一:
乳幼児唇裂患者に対する CT の撮影方法の検討とその応用について
防衛医科大学校誌 5: 104-110 (1980)
- 藤田恵一, 新井克志:
アンダーム軟膏の中間層採皮創に対する治療結果
日本美容外科学会誌 19: 35-43 (1980)
- 藤田恵一, 久米田淳, 占部治郎, 石橋明, 新井克志:
日光皮膚炎および熱傷に対するアンダーム軟膏の効果
西日本皮膚科 42: 1013-1023 (1980)
- 新井克志, 藤田恵一, 浅野伍朗, 相原薫, 矢島権八:
癒痕ケロイド形成における血管平滑筋細胞の役割について
医学のあゆみ 116: 767-769 (1981)

BIBLIOGRAPHY



- 新井克志, 藤田恵一, 黒川胤臣, 門田俊夫:
形成外科領域における ultrasonic surgical aspirator の使用経験
形成外科 24: 163-168 (1981)
- Arai K, Nagasawa A:
Production and application of an automatic driving device
for the hand piece of a laser apparatus.
Transactions of the 4th Congress of the International
Society for Laser Surgery 16-17 (1981)
- Nagasawa A, Atsumi K, Nishikawa K, Arai K:
Combined YAG Laser with CO₂ Laser therapy applied to
malignant tumor.
Transactions of the 4th Congress of the International
Society for Laser Surgery 11-38 (1981)
- 新井克志, 大慈弥裕之, 早稲田豊美, 藤田恵一:
グラフィックデジタルライザーの形成外科領域への応用
形成外科 24: 427-431 (1981)
- Arai K, Asano G, Aihara K:
Electron microscope histochemical study of keloid: Role of
myofibroblast and blood vessel in keloid formation.
Medical Electron Microscopy 14: 283-289 (1981)
- 新井克志, 藤田恵一, 早稲田豊美, 東威志, 岩佐博, 溝口修身, 平出星夫:
若年乳癌患者に対する広背筋皮弁による乳房再建の経験
防衛医科大学校誌 7: 29-35 (1982)
- 藤田恵一, 新井克志, 窪田明, 坪井良治, 早稲田豊美:
CAS (コラーゲン創傷保護剤) による治療試験
基礎と臨床 16: 976-983 (1982)
- 藤田恵一, 新井克志, 窪田明, 坪井良治, 早稲田豊美:
コラーゲン創傷保護剤 (CAS) の臨床結果
基礎と臨床 16: 583-586 (1982)

BIBLIOGRAPHY



- 新井克志, 東威志, 大田秀樹, 早稲田豊美, 藤田恵一, 長沢明範:
YAGレーザーの外科的応用に関する基礎的研究
日本レーザー医学会誌 3: 415-420 (1982)
- 新井克志, 早稲田豊美, 東威志, 大田秀樹, 藤田恵一, 長沢明範, 西川宏司,
加藤一一:
腫瘍に対するYAGレーザーおよびCO₂レーザーの併用療法
—臨床応用例—
日本レーザー医学会誌 3: 421-422 (1982)
- 新井克志, 早稲田豊美, 藤田恵一, 長沢明範:
われわれの試作した簡易レーザー
自動駆動装置とアルゴンレーザーによる単純性血管腫治療への応用
形成外科 25: 445-449 (1982)
- 新井克志, 藤田恵一, 菊地眞, 長沢明範:
レーザー用自動ハンドピース走行装置の開発と応用
形成外科 25: 539-545 (1982)
- 新井克志, 東威志, 早稲田豊美, 藤田恵一, 矢部喜憲, 浅野伍朗:
血友病Aを伴ったNeurocutaneous melanosisと思われる
一症例
皮膚科の臨床 25: 271-274 (1983)
- 溝口修身, 平出星夫, 三村一夫, 初瀬一夫, 黒川胤臣, 加辺純雄, 門田俊夫,
田巻国義, 寺島肇, 岩佐博, 新井克志:
若年者乳癌の一例と本邦報告例の検討
外科診療 25: 215-218 (1983)
- 藤田恵一, 石橋明, 新井克志:
小児熱傷の局所療法
皮膚科診療 5: 167-173 (1983)
- 長沢明範, 新井克志, 藤田恵一, 大橋泰彦, 渥美和彦, 西川宏司:
展開サーモグラフィーの臨床応用とその利点
医学生物学サーモグラフィー 3: 45-56 (1983)

BIBLIOGRAPHY



- 早稲田豊美, 新井克志, 石橋明, 藤田恵一, 三村一夫:
足底部悪性黒色腫の一経験—Radical groin dissection を中心に一
皮膚科の臨床 25: 596-597 (1983)
- 新井克志, 間武雄, 浅野伍朗:
癬痕ケロイド由来細胞の in vitro での生物学的特性の観察
医学のあゆみ 124: 824-826 (1983)
- 新井克志, 早稲田豊美, 関根るみ子:
形成外科領域における出血に対するトロンピン、コラーゲンスポンジ
の併用経験
薬理と治療 11: 413-418 (1983)
- 新井克志, 佐藤俊次, 関根るみ子, 早稲田豊美, 藤田恵一, 長沢明範:
再建乳房のサーモグラフィー
医学生物学サーモグラフィー 3: 28-30 (1983)
- Nagasawa A, Arai K, Fujita K, Kato K, Munakata A:
Developmental Thermography and Plastic Surgery.
Transactions of the VIII International Congress of Plastic and
Reconstructive Surgery: 709-711 (1983)
- Arai K, Waseda T, Ohta H, Azuma T, Fujita K, Nagasawa A,
Nishikawa H, Kato K:
A combination therapy of YAG and CO₂ Laser for
malignant tumor.
Transactions of the VIII International Congress of Plastic and
Reconstructive Surgery: 400 (1983)
- 大田秀樹, 東威志, 関根るみ子, 新井克志, 藤田恵一, 沢田政道:
両側の複雑な耳介奇形を伴った Goldenhar 症候群の一例
防衛医科大学校誌 8: 165-169 (1983)
- Arai K, Waseda T, Ohta H, Azuma T, Nagasawa A:
A preliminary study on clinical application of Nd-YAG Laser
to the face and head.
Laser in Surgery and Medicine 3: 231-239 (1983)

BIBLIOGRAPHY



- 早稲田豊美, 新井克志, 関根るみ子, 藤田恵一, 長沢明範:
改良型レーザー自動駆動装置について
医科器機学会誌 53: 625-627 (1983)
- 平出星夫, 河野道弘, 初瀬一夫, 門田俊夫, 黒川胤臣, 田巻国義, 加辺純雄,
溝口修身, 三村一夫, 石神童信, 新井克志:
乳房術後機能障害の検討
防衛医科大学校誌 48 (1983)
- 早稲田豊美, 新井克志, 佐藤大三, 関根るみ子, 佐藤俊次, 藤田恵一:
肥厚性癭痕、癭痕ケロイドに対するトラニラストの使用経験
Therapeutic Research 1: 155-159 (1984)
- 長沢明範, 新井克志, 藤村恵一, 大橋泰彦, 加藤一一:
展開サーモグラフィーの臨床応用例
—乳癌の診断並びに形成外科的応用—
東京都衛生局学会誌 72: 94-95 (1984)
- 新井克志, 関根るみ子, 早稲田豊美, 藤田恵一:
レックリングハウゼン氏病に対する Ultrasonic surgical
aspirator (CUSA) の応用
防衛医科大学校誌 9: 60-64 (1984)
- 新井克志, 重野陽一, 藤田恵一, 長沢明範:
一次的再建乳房のサーモグラフィーについて
Biomedical Thermography 4: 45-47 (1984)
- 中野峰生, 岡本順子, 辰野治朗, 芦田広, 新井克志, 藤田恵一:
急性重症熱傷における視床下郎の脳波変化について
日本形成外科学会誌 5: 1-6 (1985)
- 新井克志, 白正善, 藤田恵一, 佐藤茂, 柏原薫:
重症熱傷時における脳下垂体前葉の血管系ならびにホルモン分泌細胞の微細構造的変化についての実験的研究
医学のあゆみ 132: 598-599 (1985)

BIBLIOGRAPHY



- 佐藤俊次, 坪井るみ子, 木村康隆, 新井克志:
サーモグラフィーによる axial pattern flap の作成について
—特に放射線、手術、薬剤による局所の障害例に対して—
Biomedical Thermography 5: 88-90 (1985)
- 佐藤俊次, 仲田龍一, 早稲田豊美, 新井克志:
Fascio-cutaneous flap に対するサーモグラフィーの応用
Biomedical Thermography 5: 91-93 (1985)
- 新井克志, 坪井るみ子:
耳介部に発生した易出血性巨大神経線維腫に対する CUSA の
使用経験
手術 39: 795-797 (1985)
- 新井克志, 木村康隆, 佐藤俊次:
われわれの考案した micro vascular flap について
手術 39: 1057-1059 (1985)
- 長沢明範, 新井克志, 加藤一一:
展開サーモグラフィー (VI)
—臨床応用における本法の利用価値の検討—
医科器械学会誌 55: 101-106 (1985)
- 新井克志, 白正善, 中野峰生, 藤田恵一, 佐藤茂, 浅野伍朗, 相原薫:
重傷熱傷時の脳下垂体前葉の超微形態的变化について
熱傷 10: 216-223 (1985)
- 新井克志, 佐藤俊次, 仲田龍一:
皮膚血管腫の治療に対する Thermography の応用について
Biomedical Thermography 5: 127-129 (1985)
- 新井克志, 長沢明範, 佐藤俊次, 仲田龍一, 吉永裕一郎:
種々の皮弁 (特に axial pattern flap) 作成における
Thermo-recovery 法の有用性について
Biomedical Thermography 5: 88-90 (1985)

BIBLIOGRAPHY



- 佐藤俊次, 志水達也, 新井克志, 藤田恵一:
悪性変化を伴った石灰化上皮腫の一例
形成外科 28: 48-51 (1985)
- 長沢明範, 新井克志, 加藤一一, 大野勝:
展開サーモグラフィーの臨床的応用について
Biomedical Thermography 5: 36-38 (1985)
- 佐藤俊次, 新井克志, 比留間政太郎, 石橋明:
眼瞼に発生した clear cell hydroadenoma の一例
臨床皮膚科 39: 1067-1071 (1985)
- 久木田淳, 新井克志, 坪井るみ子, 佐藤俊次, 伊藤嘉恭:
レックリングハウゼン氏病に対する外科的治療経験
厚生省特定疾患神経皮膚症候群調査研究班 昭和 60 年度
研究報告書: 241-248 (1986)
- 佐藤俊次, 新井克志, 久木田淳, 間武雄, 浅野伍朗:
創傷治癒過程における血管内皮細胞の増殖制御因子 (第 1 報)
防衛医科大学校誌 10: 154-159 (1985)
- 新井克志, 佐藤俊次, 伊藤嘉恭, 平出文久:
頸部の組織欠損に対する microvascular flap の応用
防衛医科大学校誌 11: 50-54 (1986)
- 新井克志, 中野峰生, 佐藤俊次, 浅野伍朗, 相原薫:
熱傷瘢痕ケロイド発生機序に関する病理組織学的研究
—特に肥満細胞の微細構造について—
熱傷 12: 19-25 (1986)
- 佐藤俊次, 新井克志, 間武雄, 浅野伍朗:
創傷治癒過程における血管内皮細胞の増殖制御因子 (第 2 報)
—特に血管内皮細胞における細胞外基質産生の意義—
防衛医科大学校誌 12: 65-72 (1987)
- 佐藤俊次, 伊藤嘉恭, 新井克志:
Nd-YAG レーザーの基礎研究とその臨床応用について
防衛衛生 34: 43-49 (1987)

BIBLIOGRAPHY



- 難波雄哉, 奈良卓, 添田周吾, 新井克志, 早稲田豊美, 文入正敏:
ケロイド・肥厚性瘢痕に対するトラニラストの臨床効果の検討
熱傷 13: 213-227 (1987)
- 新井克志, 中野峰生, 白正善, 佐藤茂, 小黒辰夫, Ghazizadeh M, 浅野伍朗,
相原薫:
重症熱傷受傷時における脳下垂体前葉の ACTH 分泌細胞について
の検討
熱傷 13: 329-333 (1987)
- 伊藤嘉恭, 新井克志, 東威志, 早稲田豊美, 坪井るみ子:
筋肉内血管腫の 1 例
形成外科 30: 650-656 (1987)
- 佐藤俊次, 伊藤嘉恭, 早稲田豊美, 新井克志:
偽正中口唇裂の 2 例とその鼻柱形成について
形成外科 30: 257-264 (1987)
- 伊藤嘉恭, 新井克志, 久木田淳:
頭蓋骨板間層内へ連続していた皮下皮様嚢腫の 1 例
臨床皮膚科 41: 79-83 (1987)
- Arai K, Sato T, Itoh Y:
Use of Microvascular Island Pedicle flaps for Facial Tissue
Defects.
Annals of Plastic Surgery 19: 181-186 (1987)
- 新井克志, 伊藤嘉恭, 東威志:
Nd-YAG レーザーの体表外科への臨床応用について
日本レーザー医学会誌 7: 37-38 (1987)
- 久木田淳, 佐藤俊次, 東威志, 新井克志:
レックリングハウゼン病における pachydermatocele の手術症例
の検討
厚生省特定疾患神経皮膚症候群研究報告書: 154-161 (1988)

BIBLIOGRAPHY



- 永田一郎, 古谷健一, 久木田淳, 高橋洋文, 新井克志:
外陰癌手術と皮膚欠損部の修復法
日本産科婦人科学会埼玉地方部会誌 18: 164-169 (1988)
- 中野峰生, 新井克志, 佐藤俊次, 岩田昭美, 岡田芳明, 三村一夫:
表皮細胞培養法の概略とその問題点
防衛衛生 35: 411-419 (1988)
- 佐藤俊次, 東威志, 新井克志:
陥没乳頭術後の乳頭プロテクターの工夫
防衛衛生 35: 93-95 (1988)
- 新井克志, 佐藤俊次, 東威志, 中野峰生:
形成外科領域におけるサーモグラフィーの応用について
—Axial pattern flap の作成に対して—
Biomedical Thermography 8: 94-96 (1988)
- 新井克志, 中野峰生, 伊藤嘉恭:
サーモグラフィーによる皮弁作成における工夫
Biomedical Thermography 8: 225-227 (1988)
- 伊藤嘉恭, 新井克志, 坪井るみ子:
筋組織の迷入が見られた副耳の 1 例
形成外科 31: 468-470 (1988)
- 佐藤俊次, 浅野伍朗, 新井克志, 佐藤昇:
内皮細胞増殖および血管増生に対するヒスタミンの影響
日本形成外科学会誌 9: 210-220 (1989)
- 佐藤俊次, 吉永裕一郎, 早稲田豊美, 久野佑三, 中野峰生, 東威志, 新井克志:
眼窩周囲の変形に対する Secondary vascularized fat graft
2 症例の検討
手術 43: 409-413 (1989)
- 伊藤嘉恭, 新井克志:
シリコンシートを利用した Secondary vascularized flap について
の実験的研究 —第 1 報 生着率および分布血管の観察—
日本形成外科学会誌 11: 91-99 (1991)

BIBLIOGRAPHY



- 伊藤嘉恭, 新井克志:
シリコンシートを利用した Secondary vascularized flap について
の実験的研究 —第2報 増生血管の経時的変化について—
日本形成外科学会誌 11: 100-109 (1991)
- 伊藤嘉恭, 石川浩一, 掘直博, 谷口靖, 新井克志, 三村一夫:
Tissue expander による再建手術の経験
防衛医科大学校誌 16: 22-29 (1991)
- 伊藤嘉恭, 新井克志, 新井克志:
広背筋皮弁採取後の筋力評価の試み
日本形成外科学会誌 11: 314-322 (1991)
- 伊藤嘉恭, 石川浩一, 掘直博, 谷口靖, 新井克志:
Cone shaped flap (仮称)による臍形成術の経験
形成外科 34: 819-824 (1991)
- 伊藤嘉恭, 宮下哲, 谷口靖, 水野博司, 川上孝一, 新井克志:
腹直筋穿通枝皮弁の解剖学的考察と、その術式について
日本形成外科学会誌 11: 927-939 (1991)
- 新井克志: Nd-YAG レーザーの基礎と臨床
日本レーザー医学会誌 11: 43-56 (1991)
- 新井克志: 乳房再建
埼玉県医学会誌 26: 453-456 (1991)
- Itoh Y, Arai K:
An experimental study of prefabricated flaps using silicone
sheets with reference to the vascular patternization process.
Annals of Plastic Surgery 28: 140-146 (1992)
- Itoh Y, Taniguchi Y, Arai K:
A case of giant cell tumor of the parotid gland.
Annals of Plastic Surgery 28: 183-186 (1992)

BIBLIOGRAPHY



Itoh Y, Arai K:

Umbilical reconstruction using a cone shaped flap.
Annals of Plastic Surgery 28: 335-338 (1992)

Itoh Y, Arai K:

A deep inferior epigastric flap with a prefabricated thin portion obtained from the insertion of a silicone sheet.
British Journal of Plastic Surgery 45: 204-207 (1992)

Itoh Y, Arai K:

Nasal reconstruction with a thin free flap prefabricated by using a silicone sheet.
Journal of Reconstructive Microsurgery 8: 359-362 (1992)

川上孝一, 伊藤嘉恭, 水野博司, 新井克志:

急性腹大動脈閉塞症に続発した下腿潰瘍の遊離広背筋皮弁による
1 再建例
形成外科 35: 913-918 (1992)

伊藤嘉恭, 新井克志, 宮田成章, 中井完治, 石川誠彦, 川上孝一, 水野博司:

サーモグラフィーを利用した皮膚穿通皮弁の挙上
Biomedical Thermography 34: 225-227 (1992)

Itoh Y, Arai K:

The deep inferior epigastric artery free skin flap: Anatomic study and Clinical application.
Plastic and Reconstructive Surgery 91: 853-863 (1993)

新井克志, 伊藤嘉恭, 浅野伍朗:

ケロイドについての提言 (第一報)
形成外科 36: 257-263 (1993)

新井克志, 伊藤嘉恭:

サーモグラフィーと血管穿通枝皮弁
Biomedical Thermography 13: 167-171 (1993)

BIBLIOGRAPHY



石川誠彦, 伊藤嘉恭, 堀直博, 石川浩一, 水野博司, 宮田成章, 川上孝一,
新井克志:

血管柄付遊離組織移植による外鼻再建の経験
防衛医科大学校誌 18: 125-132 (1993)

水野博司, 伊藤嘉恭, 川上孝一, 中井完治, 宮田成章, 新井克志:

皮膚異常反応を呈した硫化水銀含有色素による刺青の1例
形成外科 36: 687-691 (1993)

石川誠彦, 伊藤嘉恭, 堀直博, 石川浩一, 水野博司, 宮田成章, 川上孝一,
新井克志, 北原哲:

血管柄付遊離組織移植による外鼻再建の経験
防衛医科大学校誌 18: 125-132 (1993)

水野博司, 伊藤嘉恭, 川上孝一, 新井克志, 三村一夫:

広背筋皮弁により再建された乳房の長期 follow-up
— 腹直筋皮弁と比較して —
防衛医科大学校誌 19: 31-37 (1994)

水野博司, 伊藤嘉恭, 新井克志:

De-epithelialized TRAM flap と tissue expander による乳房
再建術の経験
形成外科 37: 437-442 (1994)

中島章夫, 荒井恒憲, 菊地眞, 岩谷昭美, 新井克志, 三村一夫:

間接型マニピュレータ装置を用いた KrF エキシマレーザーによる熱
傷痂皮蒸散の基礎的検討
医科器械学 64: 42-43 (1994)

Itoh Y, Kawakami K, Mizuno H, Miyata N, Nakai K, Arai K:

Combined paraumbilical perforator skin flap and
vascularized pubic bone graft.
Annals of Plastic Surgery 32: 209-213 (1994)

荒井恒憲, 岩谷昭美, 菊地眞, 新井克志, 三村一夫:

熱傷痂皮に対するエキシマレーザーの蒸散能
電気学会論文誌 114: 821-826 (1994)

BIBLIOGRAPHY



- 松浦英一, 中山凱夫, 渡辺信雄, 浅野重之, 新井克志:
Proteus 症候群の 1 例に対する外科的治療とその臨床経過
形成外科 38: 763-768 (1995)
- 中島章夫, 荒井恒憲, 菊地眞, 岩谷昭美, 新井克志, 稲崎聡, 高岡秀嗣, 加藤昌由:
KrF エキシマレーザー熱傷痂皮蒸散のリアルタイムモニタ: 反射戻り光
強度測定と時間分解写真による検討
レーザー医学医療 94: 145-148 (1995)
- Itoh Y, Arai K:
The use of thermal recovery enhanced thermography to
localized cutaneous perforators.
Annals of Plastic Surgery 34: 507-511 (1995)
- Itoh Y, Arai K:
A new operation of syndactyly and polysyndactyly of foot
without skin grafts.
British Journal of Plastic Surgery 48: 312-317 (1995)
- Nakajima A, Arai T, Kikuchi M, Iwaya A, Arai K, Inazaki S, Takaoka H,
Kato M:
The monitoring of KrF excimer laser ablation for burn scar: a
comparative study of transisent reflection measurement and
time-resolved photography of ablation.
Proceedings of Society for Photo-optical Instrumentation
Engineers 2391: 308-313 (1995)
- 松浦英一, 松本勇太郎, 中山凱夫, 新井克志:
尿道下裂形成時に問題となった前立腺小室嚢胞の 1 例
形成外科 39: 413-417 (1996)
- 宮田成章, 松浦英一, 川上孝一, 伊吾田慎一, 難波節子, 新井克志:
約一年間放置されていたカッターナイフによる眼窩内異物の一例
形成外科 39: 945-949 (1996)
- 宮田成章, 新井克志, 松浦英一, 川上孝一:
4°C皮膚保存における酸素濃度の影響
防衛医科大学校雑誌 21: 85-89 (1996)

BIBLIOGRAPHY



川上孝一, 宮下哲, 谷口靖, 荒井恒憲, 茅嶋伸介, 菊地眞, 新井克志, 村上志緒,
久野耕司:

ArF エキシマレーザーを用いた皮膚表層の剥離実験
—吸引浸出液採取のための前処理法としての検討—
第 16 回レーザー医学会大会論文集: 281-284 (1996)

川上孝一, 宮下哲, 谷口靖, 荒井恒憲, 菅嶋伸介, 菊地眞, 新井克志, 村上志緒:
ダウンシルクロライドを用いた蛍光観察による角質厚み計測
第 16 回レーザー医学会大会論文集: 289-292 (1996)

宮田成章, 新井克志, 松浦英一, 阿部清秀:
診断に苦慮した脂肪腫様脂肪肉腫の 1 例
形成外科 40: 921-925 (1997)

宮田成章, 松浦英一, 新井克志, 阿部清秀:
反復した鈍的外傷により発症した小指球部動脈瘤の 1 例
形成外科 40: 1217-1220 (1997)

Miyata N, Ghazizadeh M, Arai K:
Silver staining of nucleolar organizer regions in keloid
scars.
Annals of Plastic Surgery 37: 438 (1997)

Ghazizadeh M, Miyata N, Sasaki Y, Arai K, Aihara K:
Silver-stained nucleolar organizer regions in hypertrophic
and keloid scars.
American Journal of Dermatopathology 19: 468-472
(1997)

古谷健一, 徳岡晋, 村山敬彦, 山岸幸子, 後藤友子, 斉藤恵子, 新井克志,
永田一郎:
Rokitansky-Kuster-Hauser 症候群における造脣術
臨床外科 11: 389-392 (1998)

武井貞治, 伊藤嘉恭, 新井克志:
下顎に発生した先天性局所性多毛症の 1 例
皮膚科の臨床 40: 151-153 (1998)

BIBLIOGRAPHY



- Takei T, Mills I, Arai K, Sumpio B E:
Molecular basis for tissue expansion: clinical implications for
the surgeon.
Plastic and Reconstructive Surgery 102: 247-258 (1998)
- 新井克志: 形成外科最近のトピックス ケロイド
日本外科学会雑誌 100: 529-533 (1999)
- Chijiwa T, Arai K, Miyazaki N, Igota S, Yamamoto N:
Making of a Facial Perforator Map by Thermography.
Annals of Plastic Surgery 44: 596-600 (2000)
- Yamamoto N, Igota S, Izaki H, Arai K:
"Reverse turnover" transfer of a latissimus dorsi muscle flap
for a large lumbar defect.
Plastic and Reconstructive Surgery 107: 1496-1499
(2001)
-

著 書

- 新井克志: 脈管疾患のサーモグラム (動静脈瘤の下肢), 植皮・ケロイド・
皮膚管のサーモグラム
医用サーモグラフィー図譜 渥美和彦 編 医学書院 東京 (1971)
- Arai K: Thermometer in the study of Bloodflow circulation in skin
tubes and flaps
Medical thermography. Atsumi K, ed. University of Tokyo
press, Tokyo (1973)
- 新井克志: 特殊な植皮術について 冷凍植皮術
医科大辞典 50 巻 武見太郎 編 講談社 東京 (1983)
-

BIBLIOGRAPHY



- Arai K, Sato T:
Clinical Application of the Nd-YAG Laser in Dermatology and
Plastic Surgery
Advances in Nd-YAG Laser Surgery. Joffe S and Oguro Y,
ed. Springer-Verlag, New York (1983)
- 新井克志: 形成外科・皮膚科領域におけるサーモグラフィーについて
医用サーモグラフィー 第1版 日本サーモグラフィー学会 編
中山書店 東京 (1984)
- Arai K: Fundamental and Clinical studies on the role of Nd-YAG
laser in surgery
Nd-YAG Laser in Medicine and Surgery. Oguro Y, Atsumi K
and Joffe S, ed. Professional Postgraduate Services, Tokyo
(1986)
- 新井克志: ケロイド
電子顕微鏡診断学 —基礎と実際— 日本医科大学WHO 電顕診断学
センター 編 藤田企画 東京 (1986)
- 新井克志: 人工皮膚・コラーゲン
新外科学大系 形成外科II 第1版 和田達雄 監修 中山書店 東京
(1987)
- 新井克志: ケロイド, 熱傷, 細胞増殖因子
疾患からみた基礎病理学 第1版 浅野伍朗・永田登喜雄 編 広川書店
東京 (1988)
- 新井克志: 鶏眼・胼胝, 刺青
今日の皮膚疾患治療指針 第1版 池村重雄・今村貞夫・大城戸宗男・
荒田次郎 編 医学書院 東京 (1991)
- 新井克志: 乳房再建
図説乳癌 死亡率ゼロへの戦略 藤間弘行 編 埼玉県外科医会 埼玉
(1992)

BIBLIOGRAPHY



- 新井克志: 形成外科
外科学 第 1 版 杉町圭蔵・磨伊正義・岡田正・武富士徹一郎 編
南山堂 東京 (1994)
- 新井克志: Nd-YAG レーザーの基礎と臨床
形成外科 ADVANCE シリーズ レーザー最新の進歩 第 1 版 波利井
清紀 監修 克誠堂 東京 (1996)
- 新井克志: サーマグラフィーの応用
形成外科 ADVANCE シリーズ 画像診断と手術シュミレーション
最新の進歩 第 1 版 波利井清紀 監修 克誠堂 東京 (1996)
- 新井克志: 形成外科とサーモグラフィ
最新医用サーモグラフィー —熱画像診断テキスト— 第 1 版
藤正勲 監修 日本サーモロジー学会 東京 (1999)
- 新井克志, 光嶋勲:
他科の手術 形成外科
新女性医学大系 6 産婦人科手術の基礎 第 1 版 武谷雄二 総編集
中山書店 東京 (2000)
-

学会発表

- 別府俊男, 佐藤礼介, 倉光秀麿, 佐野鎌太郎, 岸一男, 新井克志, 岡部秀男,
野口尚子:
先天性心疾患に合併した脳腫瘍の 12 例
第 131 回東京女子医科大学学会総会 (1964)
- 新井克志, 石原昭, 市川博之:
最近 10 年間に経験した縦隔腫の自検例
第 131 回東京女子医科大学学会総会 (1964)
-

BIBLIOGRAPHY

- 大田八重子, 倉光秀麿, 野口尚子, 山本勲, 新井克志, 細井義男:
東京女子医科大学外科教室における過去 10 年間の高齢急性腹症に関する統計的観察
第 133 回東京女子医科大学学会総会 (1966)
- 伊藤仁, 大森清一, 倉田喜一郎, 平山峻, 渡辺清隆, 上原美枝子, 赤川徹弥,
新井克志:
顔面諸病変に対する thick split thickness skin graft について
第 9 回日本形成外科学会総会 (1966)
- 平山峻, 大森清一, 倉田喜一郎, 伊藤仁, 渡辺清隆, 赤川徹弥, 新井克志:
婦人科領域における放射線潰瘍の治療および予防法
第 9 回日本形成外科学会総会 (1966)
- 渡辺清隆, 児浦達朗, 上原美枝子, 赤川徹弥, 新井克志:
手指瘢痕拘縮に対する形成手術症例の統計的観察と手術成績の反省
第 9 回日本形成外科学会総会 (1966)
- 新井克志, 福田修, 添田周吾, 塩谷信幸, 小原一則:
Klippel-Weber-Trenauney Syndrome のアンギオグラフィーについて
第 10 回日本形成外科学会総会 (1967)
- 新井克志, 福田修, 添田周吾, 小原一則, 渥美和彦, 藤正巖:
サーモグラフィーの経験
第 19 回日本形成外科学会東京地方会 (1967)
- 新井克志, 福田修:
チューブフラップに対するサーモメーター (MT3 型) の適応
第 21 回日本形成外科学会東京地方会 (1968)
- 新井克志, 福田修:
Tube flap に対する医用サーモグラフィー、サーモメーターの適応
第 1 回日本医用サーモグラフィー研究会 (1968)
- 添田周吾, 新井克志, 小原一則:
下口唇より上口唇への Free composite graft の応用とその知見
第 11 回日本形成外科学会総会 (1968)

BIBLIOGRAPHY



- 小原一則, 福田修, 添田周吾, 新井克志:
患皮部に対するスカーレットレッド軟膏療法
第 11 回日本形成外科学会総会 (1968)
- 新井克志, 福田修, 添田周吾, 小原一則, 渥美和彦, 藤正巖:
Tube flap に対する medical thermograph, thermometer の適応
(第 2 報)
第 11 回日本形成外科学会総会 (1968)
- 福田修, 新井克志:
Medical thermograph, thermometer の形成外科的応用
第 11 回日本形成外科学会総会 (1968)
- 福田修, 新井克志, 小原一則:
胸部皮弁による頸部食道再建術
第 11 回日本形成外科学会総会 (1968)
- 新井克志, 福田修:
注射針型サーミスター温度計の形成外科的応用
第 11 回日本形成外科学会総会 (1968)
- 小原一則, 福田修, 新井克志:
Redivac suction の形成外科領域への応用
第 11 回日本形成外科学会総会 (1968)
- 新井克志, 福田修, 添田周吾, 小原一則:
電撃症に対する頭蓋欠損の一例
第 24 回日本形成外科学会東京地方会 (1968)
- 福田修, 添田周吾, 新井克志, 小原一則, 塩谷伸幸:
Ehlers-Danlos 症候群の 2 例および Anetodermie 1 例に対する
形成手術
第 24 回日本形成外科学会東京地方会 (1968)
- 新井克志, 福田修, 添田周吾, 小原一則:
同種移植のサーモグラフィー的検討
第 24 回日本形成外科学会東京地方会 (1968)

BIBLIOGRAPHY



- 添田周吾, 新井克志, 小原一則:
顔から顔への植皮
第 25 回日本形成外科学会東京地方会 (1969)
- 福田修, 新井克志, 小原一則:
Philtrum 作りを考慮した唇裂形成術
第 25 回日本形成外科学会東京地方会 (1969)
- 新井克志, 福田修, 添田周吾, 小原一則, 江崎哲雄:
放射線障害に対する外科的治療の検討
第 26 回日本形成外科学会東京地方会 (1969)
- 福田修, 添田周吾, 新井克志, 江崎哲雄, 小原一則:
単純切除縫合のすすめ
第 26 回日本形成外科学会東京地方会 (1969)
- 福田修, 新井克志, 小原一則, 江崎哲雄:
唇裂手術と人中の再建
第 12 回日本形成外科学会総会 (1969)
- 添田周吾, 新井克志, 小原一則:
交通外傷による眼瞼変形の形成手術について
第 12 回日本形成外科学会総会 (1969)
- 添田周吾, 新井克志, 小原一則, 江崎哲雄, 福田修:
顔面血管腫に対する幼児期放射線治療の後遺症とその手術
第 12 回日本形成外科学会総会 (1969)
- 福田修, 添田周吾, 新井克志, 小原一則, 山畑阿良太:
ケロイドの治療特に切除縫合の成績
第 12 回日本形成外科学会総会 (1969)
- 新井克志, 福田修, 添田周吾, 小原一則, 江崎哲雄:
Medical Thermometer, Blood Flowmeter による同種植皮片の拒絶反応の早期診断について
第 12 回日本形成外科学会総会 (1969)

BIBLIOGRAPHY



- 江崎哲雄, 福田修, 新井克志, 小原一則:
小耳症手術の問題点
第 12 回日本形成外科学会総会 (1969)
- 新井克志, 福田修:
移植組織の血行状態に対する医用サーモメーターの適応
第 2 回日本医用サーモグラフィ研究会 (1969)
- 新井克志: 電撃症に対する頭皮頭蓋欠損の修復症例
第 27 回日本形成外科学会東京地方会 (1969)
- 添田周吾, 福田修, 新井克志, 江崎哲雄, 平賀義雄, 渡辺常代, 坂東正士:
皮膚悪性腫瘍の一例
第 29 回日本形成外科学会東京地方会 (1970)
- 新井克志, 福田修, 添田周吾, 小原一則:
簡易 Tube 作成器
第 13 回日本形成外科学会総会 (1970)
- 添田周吾, 福田修, 新井克志, 小原一則, 江崎哲雄, 平賀義雄, 坂東正士:
放射線潰瘍の手術
第 13 回日本形成外科学会総会 (1970)
- 新井克志, 福田修, 添田周吾, 小原一則, 平賀義雄, 坂東正士:
陳旧性顔面骨折の手術について
第 13 回日本形成外科学会総会 (1970)
- 新井克志, 福田修, 小原一則, 添田周吾, 長沢明範:
Tube flap に対する infrared thermometer の応用
第 13 回日本形成外科学会総会 (1970)
- 小原一則, 福田修, 新井克志:
頸部食道欠損再建の一症例
第 34 回日本形成外科学会東京地方会 (1971)
- 坂東正士, 福田修, 添田周吾, 新井克志, 小原一則, 平賀義雄:
Von Recklinghausen's disease に対する形成外科的治療経過
第 14 回日本形成外科学会総会 (1971)

BIBLIOGRAPHY

- 添田周吾, 福田修, 新井克志, 小原一則, 坂東正士, 平賀義雄:
乳房異物の摘出例の検討
第 14 回日本形成外科学会総会 (1971)
- 新井克志, 福田修, 秋山太一郎:
Silicone mesh の応用
第 14 回日本形成外科学会総会 (1971)
- 福田修, 新井克志, 小原一則, 坂東正士, 平賀義雄:
Flap の壊死とその予防について
第 14 回日本形成外科学会総会 (1971)
- 新井克志, 福田修, 添田周吾, 小原一則, 坂東正士:
顔面軟部組織外傷陳旧例について
第 39 回日本形成外科学会東京地方会 (1972)
- 小原一則, 福田修, 添田周吾, 新井克志:
顔面の色素性母斑とその方向性について (統計的検討)
第 15 回日本形成外科学会総会 (1972)
- 坂東正士, 新井克志, 福田修:
特殊持針器
第 15 回日本形成外科学会総会 (1972)
- 新井克志, 福田修, 添田周吾:
唇裂形成手術における二、三の試みと検討
第 15 回日本形成外科学会総会 (1972)
- 新井克志, 福田修, 中山凱夫, 徐正桢, 桜井靖久, 井街宏, 渥美和彦:
Collagen 製人工皮膚の臨床的応用 (第 2 報)
第 46 回日本形成外科学会東京地方会 (1973)
- 新井克志, 福田修, 徐正桢:
埋没耳の一手術方法について
第 47 回日本形成外科学会東京地方会 (1973)

BIBLIOGRAPHY



- 小原一則, 福田修, 添田周吾, 新井克志, 平賀義雄, 西山真一郎, 徐正桢:
稀なる顔面裂症例の検討
第16回日本形成外科学会総会 (1973)
- 新井克志, 福田修:
各種熱傷時における腎臓障害像に関する電子顕微鏡的研究
第21回日本災害医学会 (1973)
- 新井克志, 福田修, 添田周吾, 許梅川, 徐正桢:
小鼻孔の形成外科
第49回日本形成外科学会東京地方会 (1974)
- 新井克志, 小原一則, 福田修:
交通事故による癍痕の統計的観察
第28回交通医学会 (1974)
- 相原薫, 矢島権八, 平山俊, 新井克志:
熱傷時ショックにおける肝臓腎臓の超微形態的变化について
第6回日本電子顕微鏡学会 (1974)
- 福田修, 添田周吾, 新井克志, 小原一則, 坂東正士:
小耳症形成における complication
第17回日本形成外科学会総会 (1974)
- 新井克志, 徐正桢, 添田周吾, 福田修, 相原薫, 浅野伍郎:
色素および墨汁注入による複合移植組織片の生着過程に関する
実験的研究
第17回日本形成外科学会総会 (1974)
- 徐正桢, 福田修, 許梅川, 新井克志:
Light coagulation の形成外科的応用 (第一報)
第53回日本形成外科学会東京地方会 (1974)
- Arai K, Fukuda O, Hirayama T, Asano G, Aihara K:
Ultrastructural changes in kidneys in experimentally induced
thermal burns.
The 8th International Congress on Electron Microscopy
(1974)

BIBLIOGRAPHY



- Fukuda O, Arai K, Bando M, Yamada A:
An analysis of microtia and its associated disorders.
The 6th International Congress of Plastic and
Reconstructive Surgery (1975)
- 新井克志, 許梅川, 徐正楡, 添田周吾, 福田修:
遊離総合移植片の生着経過に関する実験的研究 (第2報)
第55回日本形成外科学会東京地方会 (1975)
- 徐正楡, 新井克志, 小原一則, 坂東正士, 平賀義雄, 西山真一郎, 中山凱夫,
添田周吾, 福田修:
Light coagulation の形成外科領域における応用 (第2報)
第18回日本形成外科学会総会 (1975)
- 坂東正士, 平賀義雄, 福田修, 添田周吾, 新井克志, 小原一則:
Bag prosthesis による乳房再建例の検討
第18回日本形成外科学会総会 (1975)
- 新井克志, 小原一則, 福田修:
眼窩周辺の骨折により眼球破裂を来たした症例に対する形成術に
ついての検討
第29回交通医学学会総会 (1975)
- 新井克志, 福田修, 添田周吾, 許梅川, 徐正楡:
Subcutaneous Pedicle flap の生着について
第57回日本形成外科学会東京地方会 (1975)
- 新井克志: Modified Skoog's method について
第61回日本形成外科学会東京地方会 (1976)
- 新井克志, 福田修, 添田周吾, 許梅川, 徐正楡:
遊離総合移植片の生着過程における諸変化についての電子顕微鏡的
研究 一特に組織化学検索を中心に一
第19回日本形成外科学会総会 (1976)
- 李泰権, 新井克志, 添田周吾, 福田修:
4°C保存皮膚の経時的な微細構造の変化 一特に血管を中心として一
第63回日本形成外科学会東京地方会 (1976)

BIBLIOGRAPHY



- 新井克志, 李泰権, 福田修, 小原一則:
保存皮膚の生着について
第64回日本形成外科学会東京地方会 (1976)
- 李泰権, 福田修, 添田周吾, 許梅川, 新井克志, 浅野伍郎, 相原薫, 矢島権八:
遊離総合移植片の生着機序に関する電子顕微鏡的研究
第8回日本臨床電子顕微鏡学会 (1976)
- 李泰権, 新井克志, 福田修:
Porcine skin graft の病理組織学的研究
第65回日本形成外科学会東京地方会 (1976)
- 李泰権, 新井克志, 福田修, 添田周吾, 浅野伍郎, 相原薫, 矢島権八:
遊離総合移植片の生着機序に関する病理組織学的研究
第20回日本形成外科学会総会 (1977)
- 福田修, 新井克志, 坂東正土, 中山凱夫, 山田敦:
縫合瘢痕の長期観察
第20回日本形成外科学会総会 (1977)
- 山田敦, 福田修, 新井克志, 平賀義雄, 坂東正土, 中山凱夫, 添田周吾:
先天性耳介異常隆起に対する形成術の検討
第20回日本形成外科学会総会 (1977)
- Lee T K, Arai K, Nakayama Y:
Electron microscopic study of neovascularization of free
composite graft.
The 2nd Congress of Asian Plastic Section of the
International Confederation for Plastic and Reconstructive
Surgery (1977)
- Nakajima Y, Lee T K, Arai K, Soeda S:
Experimental investigation of burial Limb amputee in rats.
The 2nd Congress of Asian Plastic Section of the
International Confederation for Plastic and Reconstructive
Surgery (1977)

BIBLIOGRAPHY



- Bando M, Murakami Y, Arai K, Soeda S, Fukuda O:
Our experiences in treating pachydermatocele in Von
Recklinghausen's disease.
The 2nd Congress of Asian Plastic Section of the
International Confederation for Plastic and Reconstructive
Surgery (1977)
- Arai K, Lee T K, Nakayama Y:
Microcirculation of free composite graft.
The 2nd Congress of Asian Plastic Section of the
International Confederation for Plastic and Reconstructive
Surgery (1977)
- 新井克志, 李泰権:
癍痕ケロイドの発生の発生機序に関する研究
第 32 回日本形成外科学会総会 (1978)
- 藤田恵一, 新井克志, 服部昇一郎:
Porcine skin の臨床的応用について
第 4 回日本熱傷学会総会 (1978)
- 新井克志, 藤田恵一, 李泰権:
唇裂児に対する Computerized axial tomography の応用について
第 73 回日本形成外科学会東京地方会 (1978)
- Arai K, Fujita K, Lee T K, Asano G:
An ultrastructural study of porcine skin graft as a biologic
dressing.
The 9th Congress on Electron Microscopy (1978)
- Lee T K, Arai K, Asano G:
An ultrastructural study of Microvasculature of free
composite graft.
The 9th Congress on Electron Microscopy (1978)
- 服部昇一郎, 藤田恵一, 新井克志:
多発性脂腺嚢腫の 1 例
第 42 回日本皮膚科学会東日本連合地方会 (1978)

BIBLIOGRAPHY



- 李泰権, 新井克志, 浅野伍郎:
ケロイドの発生に関する病理組織学的研究 —特に血管系を中心に—
第71回日本形成外科学会東京地方会 (1978)
- 新井克志, 藤田恵一, 李泰権:
遊離総合移植片の生着に関する実験的研究
—delayed grafting について—
第22回日本形成外科学会総会 (1979)
- Arai K, Fujita K, Lee T K:
Pathological study of the Keloid
- Investigation of its development -
The 7th International Congress of Plastic and
Reconstructive Surgery (1979)
- Lee T K, Arai K, Fujita K:
Immunological study of porcine skin graft
- Biochemical and immunohistochemical observations -
The 7th International Congress of Plastic and
Reconstructive Surgery (1979)
- 新井克志, 服部昇一郎, 藤田恵一:
形成外科領域における Ultrasonic surgical aspirator の応用について
第83回日本形成外科学会東京地方会 (1980)
- 新井克志, 藤田恵一, 浅野伍郎, 相原薫:
ケロイドの発育に関する血管系の役割について
第23回日本形成外科学会総会 (1980)
- 新井克志, 藤田恵一, 服部昇一郎:
グラフィックデジタイザーによる面積測定の形成外科領域への応用
第85回日本形成外科学会東京地方会 (1980)
- 新井克志, 藤田恵一, 浅野伍郎, 相原薫:
癩痕ケロイド形成に関する電顕的研究
第12回日本臨床電子顕微鏡学会 (1980)

BIBLIOGRAPHY



- 新井克志, 大慈弥裕之, 藤田恵一:
Ultrasonic surgical aspirator の臨床応用における小経験
第 89 回日本形成外科学会東京地方会 (1980)
- 新井克志, 長沢明範, 西川宏司, 加藤一一:
CO₂レーザーの外科的応用に関する基礎的研究
第 1 回日本レーザー医学会 (1980)
- 長沢明範, 加藤一一, 西川宏司, 新井克志:
繰り返しパルスレーザーの臨床応用に関する基礎的研究
第 1 回日本レーザー医学会 (1980)
- 長沢明範, 西川宏司, 新井克志:
繰り返しパルスレーザーの歯科口腔外科への応用
第 1 回日本レーザー医学会 (1980)
- 平出星夫, 竹村克二, 初瀬一夫, 黒川胤臣, 三村一夫, 岩佐博, 新井克志:
乳癌手術の皮膚切開方法の手術手技の術後の運動機能障害について
第 33 回乳癌研究会 (1981)
- 新井克志, 岩佐博, 三村一夫, 平出星夫, 溝口修身:
乳癌手術後の皮膚移植手術手技
第 33 回乳癌研究会 (1981)
- 新井克志, 藤田恵一, 早稲田豊美, 浅野伍郎, 相原薫:
瘢痕ケロイド形成に関する病理学的研究
—特に組織化学的知見を中心に—
第 24 回日本形成外科学会総会 (1981)
- 新井克志, 浅野伍郎, 矢部薫憲:
血友病を伴った Melanosis neurocutanees 患者に対する CO₂
レーザーの使用経験
第 24 回日本形成外科学会総会 (1981)
- 長沢明範, 新井克志, 大慈弥裕之, 藤田恵一:
アルゴンレーザーおよび CO₂レーザーを照射した歯髄組織の変化
について
第 20 回 ME 学会総会 (1981)

BIBLIOGRAPHY



- 新井克志, 早稲田豊美, 藤田恵一:
簡易レーザー駆動装置について
第92回日本形成外科学会東京地方会 (1981)
- 新井克志, 藤田恵一, 菊地真:
皮膚科レーザー用簡易型自動ハンドピース走行装置の開発
第56回日本医科器械学会大会 (1981)
- Fujita K, Arai K, Tuboi R, Waseda T, Ojimi H:
Reconstruction of the face with severe Burn.
The 1st International Congress of Aesthetic Surgery (1981)
- Fujita K, Ishibashi A, Arai K, Hattori K:
Punctiform hair grafting and hair implantation.
The 1st International Congress of Aesthetic Surgery (1981)
- 長沢明範, 加藤一一, 西川宏司, 新井克志, 渥美和彦:
悪性腫瘍に対するYAGおよびCO₂レーザー併用療法と両装置の
カップリング上の問題点
第56回日本医科器械学会大会 (1981)
- 藤田恵一, 新井克志:
アルゴンレーザーの皮膚科的応用
第250回日本皮膚科学会北海道地方会 (1981)
- 新井克志, 早稲田豊美, 藤田恵一:
レーザー用自動ハンドピース走行装置の開発と応用
第93回日本形成外科学会東京地方会 (1981)
- 新井克志, 大慈弥裕之, 早稲田豊美, 藤田恵一:
熱傷面積・熱傷潰瘍に対するグラフィックデジタイザーの応用
第7回日本熱傷学会総会 (1981)
- 藤田恵一, 新井克志, 秋田晴男:
熱傷局所の軟膏療法による予後
第7回日本熱傷学会総会 (1981)

BIBLIOGRAPHY



- 藤田恵一, 新井克志, 窪田明:
CASによる創傷被覆効果について
第7回日本熱傷学会総会 (1981)
- 新井克志, 大慈弥裕之, 阿野治:
凍傷患者に対する医用サーモグラフィーの適応
第13回日本医学生物学サーモグラフィー研究会 (1981)
- 新井克志, 早稲田豊美, 藤田恵一, 長沢明範:
YAGレーザーの外科的応用に関する基礎的研究
第95回日本形成外科学会東京地方会 (1981)
- 河野治, 石橋明, 新井克志, 早稲田豊美, 藤田恵一:
胸壁に生じた皮下繊維肉腫
第45回日本皮膚科学会東日本学術大会 (1981)
- 大田秀樹, 藤田恵一, 新井克志, 早稲田豊美:
潰瘍を伴った下肢広範囲瘢痕の治療
第30回日本美容外科学会 (1981)
- 藤田恵一, 石橋明, 新井克志:
人工毛挿入術および点状植毛術について
第239回日本皮膚科学会福岡地方会 (1981)
- 新井克志: An automatic driving device for the hand piece of a laser apparatus.
第14回大韓形成外科学会学術大会 (1981)
- Arai K, Fujita K, Kikuchi M, Nagasawa A:
Production and application of an automatic driving device for the hand piece of a Laser apparatus.
The 4th Congress of the International Society for Laser Surgery (1981)

BIBLIOGRAPHY



Nagasawa A, Nishikawa K, Arai K:
Combined YAG laser with CO₂ laser therapy applied to
malignant tumor.
The 4th Congress of the International Society for Laser
Surgery (1981)

新井克志, 東威志, 早稲田豊美, 太田秀樹, 藤田恵一, 浅野伍朗, 相原薫:
癬痕ケロイド形成機序に関する病理学的研究
—特に In vitro における観察結果を中心に—
第 25 回日本形成外科学会総会 (1982)

新井克志, 早稲田豊美, 大田秀樹, 東威志, 藤田恵一:
YAG レーザーの臨床応用に関する基礎的研究
第 25 回日本形成外科学会総会 (1982)

藤田恵一, 新井克志:
肥厚性癬痕の予防と治療
第 31 回日本美容外科学会 (1982)

関根るみ子, 藤田恵一, 新井克志, 大田秀樹:
レーザー療法美容外科的応用
第 31 回日本美容外科学会 (1982)

藤田恵一, 新井克志, 秋田晴男, 河野治:
熱傷局所療法検討
第 8 回日本熱傷学会総会 (1982)

藤田恵一, 新井克志, 早稲田豊美, 大田秀樹:
下肢広範囲熱傷の治療および経過
第 8 回日本熱傷学会総会 (1982)

新井克志, 藤田恵一, 早稲田豊美, 東威志, 大田秀樹:
植皮片の大きさの変化についての検討
第 8 回日本熱傷学会総会 (1982)

新井克志, 藤田恵一, 大田秀樹, 東威志, 早稲田豊美:
複雑な耳介奇形を伴った Goldenhar 症候群の一例
第 101 回日本形成外科学会東京地方会 (1982)

BIBLIOGRAPHY



- Asano G, Yajima G, Oguro T, Suzuki K, Arai K:
Ultrastructural analysis of cytomembrane injury by electron
histochemical procedures.
The 10th International Congress on Electron
Microscopy (1982)
- Arai K, Asano G, Aihara K, Yajima G:
Interaction of myofibroblast in formative process of c
ollagenous fibers as studied by electron cytochemical
procedure.
The 10th International Congress on Electron
Microscopy (1982)
- 藤田恵一, 新井克志, 坪井良治, 早稲田豊美:
コラーゲン創傷保護剤 (CAS)について
第 32 回日本美容外科学会 (1982)
- 新井克志, 東威志, 大田秀樹, 早稲田豊美, 藤田恵一, 長沢明範:
YAG レーザーの外科的応用に対する基礎的研究
第 3 回日本レーザー医学会 (1982)
- 新井克志, 東威志, 大田秀樹, 早稲田豊美, 藤田恵一, 長沢明範:
腫瘍に対する YAG レーザーおよび CO₂ レーザーの併用療法 (臨床応
用例)
第 3 回日本レーザー医学会 (1982)
- 関根るみ子, 新井克志, 大田秀樹, 藤田恵一:
CUSA を用いて切除した耳介部神経線維腫の一例
第 105 回日本形成外科学会東京地方会 (1983)
- 早稲田豊美, 関根るみ子, 佐藤俊次, 新井克志:
改良型簡易レーザー自動駆動装置について
第 105 回日本形成外科学会東京地方会 (1983)
- 新井克志, 早稲田豊美, 東威志, 大田秀樹, 浅野伍朗, 相原薫:
癬痕ケロイドに対する病理組織学的研究
一特にその微細構造を中心に一
第 26 回日本形成外科学会総会 (1983)

BIBLIOGRAPHY



- 新井克志, 早稲田豊美, 関根るみ子, 大田秀樹, 東威志:
YAGレーザーの形成外科的応用に対する基礎的研究
第26回日本形成外科学会総会 (1983)
- 藤田恵一, 新井克志, 早稲田豊美, 秋田治郎:
遊離植皮術の検討
第33回日本美容外科学会 (1983)
- 新井克志, 早稲田豊美, 佐藤俊次:
再建乳房とサーモグラフィー
第15回日本医学生物学サーモグラフィー研究会 (1983)
- 長沢明範, 新井克志, 藤田恵一, 渥美和彦, 西川宏司:
展開サーモグラフィーの臨床応用とその利点
第15回日本医学生物学サーモグラフィー研究会 (1983)
- 早稲田豊美, 関根るみ子, 佐藤俊次, 新井克志, 藤田恵一, 浅野伍朗, 柏原薫:
熱傷癒痕ケロイドの病理組織学的研究
第9回日本熱傷学会総会 (1983)
- Arai K, Waseda T, Azuma T, Ohta H, Fujita K, Nagasawa A:
A combination therapy of YAG and CO₂ laser for malignant tumor.
The 8th International Congress of Plastic Surgery (1983)
- Nagasawa A, Arai K, Munakata A:
Developmental Thermography and Plastic Surgery.
The 8th International Congress of Plastic Surgery (1983)
- 新井克志, 早稲田豊美, 佐藤俊次, 藤田恵一:
ヒト癒痕ケロイド形成に関する電顕的研究
第15回日本臨床電子顕微鏡学会総会 (1983)
- 佐藤俊次, 志水達也, 関根るみ子, 早稲田豊美, 石橋明, 新井克志, 藤田恵一:
悪性変化を伴った石灰化上皮腫の1例
第109回日本形成外科学会東京地方会 (1983)

BIBLIOGRAPHY



- 中野峰生, 新井克志, 藤田恵一:
急性重症熱傷における視床下部の脳波変化について (第1報)
第109回日本形成外科学会東京地方会 (1983)
- 中野峰生, 新井克志, 藤田恵一, 岡本順子:
急性重症熱傷における視床下部の脳波変化について (第2報)
第110回日本形成外科学会東京地方会 (1983)
- 中野峰生, 新井克志, 早稲田豊美, 藤田恵一, 白正善, 浅野伍朗, 柏原薫:
重症熱傷時における脳下垂体の超微形態的变化について
第27回日本形成外科学会総会 (1984)
- 新井克志, 早稲田豊美, 佐藤俊次, 関根るみ子, 藤田恵一, 浅野伍朗, 柏原薫:
癒痕ケロイドに対する病理組織学的研究
—特に血管壁細胞の役割について—
第27回日本形成外科学会総会 (1984)
- 新井克志, 早稲田豊美, 東威志, 佐藤俊次, 関根るみ子, 藤田恵一:
YAGレーザーの基礎的研究と形成外科領域における臨床応用について
第27回日本形成外科学会総会 (1984)
- Arai K, Fjita K :
A clinical application of Nd-YAG laser in plastic surgery.
The 2nd Congress of the Asian Plastic Section of the
International Confederation for Plastic and Reconstructive
Surgery (1984)
- 新井克志, 早稲田豊美, 東威志, 佐藤俊次, 関根るみ子, 藤田恵一:
レーザー用自動ハンドピース走行装置の改良とその臨床応用について
第26回日本形成外科学会総会 (1984)
- 新井克志, 佐藤俊次, 中野峰生, 藤田恵一, 白正善, 浅野伍朗, 柏原薫:
重症熱傷時における脳下垂体の病理学的研究
第10回日本熱傷学会総会 (1984)

BIBLIOGRAPHY



- 問武雄, 浅野伍郎, 佐藤俊次, 新井克志:
Vitamin A の創傷治療効果 一特に熱傷病変について—
第 10 回日本熱傷学会総会 (1984)
- 早稲田豊美, 新井克志, 関根るみ子, 佐藤俊次, 藤田恵一:
肥厚性瘢痕・瘢痕ケロイドに対するトラニラストの使用経験について
第 10 回日本熱傷学会総会 (1984)
- 新井克志, 早稲田豊美, 関根るみ子, 佐藤俊次, 藤田恵一:
YAG レーザーの臨床応用に対する基礎的研究 (第 4 報)
第 113 回日本形成外科学会東京地方会 (1984)
- 藤田恵一, 新井克志, 木村康隆:
レーザーによる皮膚疾患の治療
第 83 回日本皮膚科学会北海道地方会 (1984)
- 新井克志, 重野陽一, 佐藤俊次, 藤田恵一, 長沢明範:
一次的再建乳房のサーモグラフィーについて
第 1 回日本サーモロジー学会 (1984)
- 新井克志, 早稲田豊美, 佐藤俊次, 仲田龍一, 藤田恵一:
肥厚性瘢痕・瘢痕ケロイドの発生予防に対する皮内 Z 形成術の効果に
ついて
第 114 回日本形成外科学会東京地方会 (1984)
- 新井克志, 早稲田豊美, 佐藤俊次, 仲田龍一, 藤田恵一:
乳房再建術におけるサーモグラフィーの役割について
第 114 回日本形成外科学会東京地方会 (1984)
- 佐藤俊次, 新井克志, 藤田恵一:
Fasciocutaneous flap に対するサーモグラフィーの応用
—特に穿通枝の位置ならびにその支配領域について—
第 114 回日本形成外科学会東京地方会 (1984)
- 新井克志, 坪井るみ子, 吉永裕一郎, 仲田龍一, 藤田恵一:
Micro-vascularized pedicle flap の経験
第 115 回日本形成外科学会東京地方会 (1984)

BIBLIOGRAPHY



- 佐藤俊次, 早稲田豊美, 木村康隆, 新井克志:
手指に発生した Bowen 癌の 1 例
第 117 回日本形成外科学会東京地方会 (1985)
- 新井克志, 仲田龍一, 吉永裕一郎, 藤田恵一:
Lentigo に対する光治療の検討
第 28 回日本形成外科学会総会 (1985)
- 新井克志, 中野峰生, 佐藤俊次, 藤田恵一, 浅野伍朗, 相原薫:
瘢痕ケロイドに関する電子顕微鏡的観察
—特に増殖期瘢痕ケロイドの肥満細胞の動態—
第 28 回日本形成外科学会総会 (1985)
- 中谷親弘, 新井克志, 藤田恵一:
瘢痕組織内血管壁におけるコリンエステラーゼ活性について
第 28 回日本形成外科学会総会 (1985)
- 佐藤俊次, 新井克志, 間武雄, 浅野伍朗:
ケロイド由来筋線維芽細胞に関する研究
—特に血管内皮細胞増殖への影響について—
第 28 回日本形成外科学会総会 (1985)
- 新井克志, 佐藤俊次, 吉永裕一郎:
良性腫瘍に対する接触型 YAG レーザー用サージカルロッドの応用
第 620 回日本皮膚科学会東京地方会 (1985)
- 佐藤俊次, 新井克志, 藤田恵一, 間武雄, 浅野伍朗:
瘢痕ケロイドの成因と治療について
第 2 回国際美容外科学会 (1985)
- 新井克志, 佐藤俊次, 間武雄, 浅野伍朗, 相原薫:
熱傷瘢痕ケロイド発生機序に関する病理学的研究
第 11 回日本熱傷学会総会 (1985)
- Hakuk S, Nakano M, Arai K, Sato S, Asano G, Aihara K:
Ultrastructural changes in the anterior lobule of the pituitary
gland after severe burn.
Tokyo International Congress on Burns (1985)
-

BIBLIOGRAPHY



- 新井克志, 長沢明範, 佐藤俊次, 仲田龍一, 吉永裕一郎:
種々の皮弁 (特に axial pattern flap) 作成における
Thermo-recovery 法の有用性について
第 2 回日本サーモロジー学会 (1985)
- 新井克志, 佐藤俊次, 仲田龍一:
皮膚血管腫治療に対する Thermography の応用について
第 2 回日本サーモグラフィー学会 (1985)
- 佐藤俊次, 仲田龍一, 早稲田豊美, 新井克志:
F-C flap に対するサーモグラフィーの応用
第 2 回日本サーモロジー学会 (1985)
- 佐藤俊次, 坪井るみ子, 木村康隆, 新井克志:
サーモグラフィーによる axial pattern flap の作成について
第 2 回日本サーモロジー学会 (1985)
- 長沢明範, 新井克志, 加藤一一:
展開サーモグラフィーの臨床的評価について
第 2 回日本サーモロジー学会 (1985)
- 仲田龍一, 佐藤俊次, 坪井るみ子, 新井克志:
巨大なリンパ節転移を示した malignant melanoma の一例
第 121 回日本形成外科学会東京地方会 (1985)
- 佐藤俊次, 新井克志, 久木田淳, 間武雄, 浅野伍朗:
血管内皮細胞に関する病理学的研究
第 37 回西部皮膚科学会 (1985)
- 新井克志, 佐藤俊次, 吉永裕一郎, 伊藤嘉恭:
YAG レーザー用の surgical rod の皮膚良性腫瘍に対する応用について
第 6 回日本レーザー医学会大会 (1985)
- 伊藤嘉恭, 新井克志, 久木田淳:
癍痕ケロイドにおける肥満細胞の脱顆粒現象についての検討
第 12 回埼玉県皮膚科医会集談会 (1985)

BIBLIOGRAPHY

- 橋本道夫, 新井克志, 久木田淳:
Malignant fibrous histiocytoma の 1 例
第 12 回埼玉県皮膚科医会集談会 (1985)
- 佐藤俊次, 新井克志, 久木田淳, 間武雄, 浅野伍朗:
癬痕ケロイド形成における病理学的研究
—特に間葉系細胞へのヒスタミンの影響について—
第 49 回東部皮膚科学会 (1985)
- 新井克志, 佐藤俊次, 浅野伍朗, 小黒辰也, 相原薫:
肥満細胞顆粒の組織化学的性状
第 26 回日本組織細胞化学会 (1985)
- 佐藤俊次, 新井克志, 久木田淳, 間武雄, 浅野伍朗:
血管内皮細胞に関する病理学的研究
—特に内皮細胞の微細構造について—
第 26 回日本脈管学会 (1985)
- 佐藤俊次, 伊藤嘉恭, 早稲田豊美, 新井克志, 久木田淳:
偽正中裂の 2 例とその鼻柱形成について
第 123 回日本形成外科学会東京地方会 (1985)
- 佐藤俊次, 伊藤嘉恭, 仲田龍一, 新井克志, 久木田淳:
Nd-YAG レーザーの基礎研究とその臨床応用について
第 123 回日本形成外科学会東京地方会 (1985)
- 伊藤嘉恭, 新井克志, 久木田淳:
頭蓋骨板間層内へ連続していた皮下皮様嚢腫の 1 例
第 626 回日本皮膚科学会東京地方会城西地区 (1986)
- 佐藤俊次, 伊藤嘉恭, 新井克志, 久木田淳, 浅野伍朗:
熱傷癬痕ケロイドの増殖進展の特異性について
第 12 回日本熱傷学会総会 (1986)
- 新井克志, 佐藤俊次, 伊藤嘉恭, 久木田淳:
レックリングハウゼン氏病に対する外科的治療経験
厚生省特定疾患神経皮膚症候群調査研究班 昭和 60 年度
第 2 回総会 (1986)

BIBLIOGRAPHY



- 伊藤嘉恭, 佐藤俊次, 新井克志, 久木田淳:
下口唇癌の手術法について
第2回皮膚悪性腫瘍研究会 (1986)
- 伊藤嘉恭, 佐藤俊次, 新井克志:
外科手術におけるNd-YAG laserの応用についての検討
第29回日本形成外科学会総会 (1986)
- 佐藤俊次, 新井克志, 久木田淳, 間武雄, 浅野伍朗:
創傷治癒過程における血管増殖制御の検討
第29回日本形成外科学会総会 (1986)
- 新井克志, 佐藤俊次, 伊藤嘉恭, 久木田淳, 浅野伍朗, 相原薫:
瘢痕ケロイド増殖に関する各種因子の検討
第29回日本形成外科学会総会 (1986)
- 難波雄哉, 新井克志, 富士森良輔:
ケロイド・肥厚性瘢痕に対するトラニラストの臨床効果の検討
第29回日本形成外科学会総会 (1986)
- 伊藤嘉恭, 新井克志, 東威志, 早稲田豊美, 坪井るみ子:
長趾屈筋にできた筋肉内血管腫の1例
第127回日本形成外科学会東京地方会 (1986)
- 伊藤嘉恭, 新井克志:
特異な臨床像を呈した腋窩乳腺症の1例
第128回日本形成外科学会東京地方会 (1986)
- 伊藤嘉恭, 新井克志, 坪井るみ子:
組織学的に筋組織の迷入がみられた副耳の1例
第129回日本形成外科学会東京地方会 (1986)
- 佐藤俊次, 伊藤嘉恭, 新井克志, 久木田淳, 浅野伍朗:
瘢痕ケロイドの部位による微細構造の相違について
第50回日本皮膚科学会東日本学術大会 (1986)

BIBLIOGRAPHY



伊藤嘉恭, 久木田淳, 新井克志:

Von Reclinghausen 病における眼瞼挙上術
厚生省特定疾患神経皮膚症候群調査研究班 昭和 61 年度
第 1 回総会 (1986)

新井克志, 佐藤俊次, 小黒辰夫, 浅野伍朗, 相原薫:

癩痕ケロイドに関する電子顕微鏡的研究
第 18 回日本臨床電子顕微鏡学会 (1986)

佐藤俊次, 新井克志, 相原薫, 久木田淳, 石原島繁彦, 浅野伍朗:

細胞外基質の血管内皮細胞増殖に及ぼす影響
第 27 回日本脈管学会総会 (1986)

新井克志, 東威志, 佐藤俊次:

Nd-YAG レーザーの体表外科への臨床応用について
第 7 回日本レーザー医学会総会 (1986)

東威志, 伊藤嘉恭, 新井克志:

Wrap around flap の 1 不成功例
第 130 回日本形成外科学会東京地方会 (1986)

新井克志, 佐藤俊次, 東威志, 伊藤嘉恭, 吉永裕一郎, 浅野伍朗:

増殖期ケロイド表皮の微細構造的変化について
第 30 回日本形成外科学会総会 (1987)

新井克志, 東威志, 佐藤俊次, 伊藤嘉恭:

Nd-YAG レーザーの外科手術に対する臨床応用と手術装置について
第 30 回日本形成外科学会総会 (1987)

伊藤嘉恭, 東威志, 新井克志:

広背筋欠損患者の筋力評価の試み
第 30 回日本形成外科学会総会 (1987)

佐藤俊次, 新井克志, 久木田淳, 間武雄, 浅野伍朗:

創傷治癒過程における血管内皮細胞の増殖制御因子
第 30 回日本形成外科学会総会 (1987)

BIBLIOGRAPHY



- 佐藤俊次, 東威志, 吉永裕一郎, 伊藤嘉恭, 新井克志:
療痕ケロイドの部位による形態的特徴とその解析について
第 13 回日本熱傷学会総会 (1987)
- 佐藤俊次, 東威志, 新井克志, 久木田淳:
レックリングハウゼン病における pachydermatocele の手術症例
の検討
厚生省特定疾患神経皮膚症候群調査研究班 昭和 63 年度
第 1 回総会 (1988)
- 佐藤俊次, 東威志, 新井克志, 佐藤昇:
低出力レーザーによる血管新生への影響についての実験的研究
第 140 回日本形成外科学会東京地方会 (1988)
- 新井克志, 佐藤俊次, 東威志, 佐藤昇:
血管新生、血管増殖を利用した新しい皮弁の作成についての検討
第 31 回日本形成外科学会総会 (1988)
- 新井克志, 東威志, 佐藤俊次:
複数のプローブを装着した Nd-YAG レーザー手術装置について
第 31 回日本形成外科学会総会 (1988)
- 新井克志: ケロイドの発生・増殖のメカニズムとその治療への応用
第 31 回日本形成外科学会総会 (1988)
- 佐藤俊次, 新井克志, 東威志, 久木田淳, 佐藤昇, 間武雄, 浅野伍朗:
創傷治癒過程における血管内皮細胞の増殖制御の検討
—特にヒスタミンの効果について—
第 31 回日本形成外科学会総会 (1988)
- 新井克志, 東威志, 佐藤俊次:
熱傷における過剰増殖性癍痕の病理組織学的検討
—特にその局所的違いについて—
第 14 回日本熱傷学会総会 (1988)

BIBLIOGRAPHY



- 佐藤俊次, 東威志, 中野峰生, 新井克志:
眼窩周囲の変形に対する secondary vascularized fat graft の
2 症例の検討
第 144 回日本形成外科学会東京地方会 (1988)
- 石川浩一, 伊藤嘉恭, 新井克志:
造臍術を施行した臍子宮内膜症の 1 例
第 147 回日本形成外科学会東京地方会 (1989)
- 新井克志, 佐藤俊次, 中野峰生, 早稲田豊美:
ケロイドの治療についての検討
第 32 回日本形成外科学会総会 (1989)
- 新井克志, 佐藤俊次, 中野峰生:
われわれが現在行なっているレーザー治療についての検討
第 32 回日本形成外科学会総会 (1989)
- 石川浩一, 伊藤嘉恭, 安間久芳, 新井克志, 三村一夫:
瘢痕組織に対する Tissue expander の臨床経験
第 35 回防衛衛生学会 (1990)
- 安間久芳, 伊藤嘉恭, 新井克志:
耳介軟骨を用いた気管再建についての経験
第 35 回防衛衛生学会 (1990)
- 谷口靖, 伊藤嘉恭, 新井克志:
Lateral calcaneal flap の経験
第 35 回防衛衛生学会 (1990)
- 宮下哲, 伊藤嘉恭, 新井克志:
Scapular flap 挙上例の検討
第 35 回防衛衛生学会 (1990)
- 伊藤嘉恭, 石川浩一, 安間久芳, 堀直博, 新井克志:
シリコンシートを利用した Secondary vascularized flap の検討
第 33 回日本形成外科学会総会 (1990)

BIBLIOGRAPHY



- 安間久芳, 新井克志, 伊藤嘉恭, 三村一夫, 浅野伍朗:
結局我々のいわゆるケロイドの治療は
第 33 回日本形成外科学会総会 (1990)
- 伊藤嘉恭, 石川浩一, 安間久芳, 堀直博, 新井克志:
シリコンシートを利用した Secondary vascularized flap の基礎的
実験 (第 1 報)
第 153 回日本形成外科学会東京地方会 (1990)
- 伊藤嘉恭, 石川浩一, 安間久芳, 堀直博, 新井克志:
シリコンシートを利用した Secondary vascularized flap の基礎的
実験 (第 2 報)
第 154 回日本形成外科学会東京地方会 (1990)
- 伊藤嘉恭, 堀直博, 谷口靖, 石川浩一, 新井克志:
Tissue expander を利用した先天性両側乳房欠損症の 1 例
第 155 回日本形成外科学会東京地方会 (1990)
- 伊藤嘉恭, 新井克志:
Silicone sheet を利用した Secondary vascularized flap における
構成血管の経時的変化について
第 3 回形成外科リサーチフォーラム (1990)
- 伊藤嘉恭, 石川浩一, 堀直博, 谷口靖, 藤野和浩, 新井克志:
Cone shaped flap (仮称) による臍形成術の経験
第 157 回日本形成外科学会東京地方会 (1990)
- 谷口靖, 伊藤嘉恭, 藤野和浩, 新井克志:
耳下腺由来巨細胞腫の 1 例
第 157 回日本形成外科学会東京地方会 (1990)
- 谷口靖, 伊藤嘉恭, 宮下哲, 藤野和浩, 石川浩一, 堀直博, 新井克志:
Tissue expander による乳房再建の経験
第 36 回防衛衛生学会 (1991)
- 伊藤嘉恭, 谷口靖, 宮下哲, 新井克志:
腹直筋穿通枝皮弁の小経験
第 158 回日本形成外科学会東京地方会 (1991)

BIBLIOGRAPHY



- 伊藤嘉恭, 石川浩一, 堀直博, 谷口靖, 宮下哲, 新井克志:
鼻翼再建の2例 —Prefabricated thin Free flap と Free radial forearm flap との比較—
第160回日本形成外科学会東京地方会 (1991)
- 伊藤嘉恭, 石川浩一, 堀直博, 谷口靖, 宮下哲, 新井克志:
シリコンシートを利用した Secondary vascularized flap の臨床経験
第34回日本形成外科学会総会 (1991)
- 伊藤嘉恭, 石川浩一, 谷口靖, 宮下哲, 新井克志:
腹直筋穿通枝皮弁による踵部再建の経験
第34回日本形成外科学会総会 (1991)
- 新井克志, 伊藤嘉恭, 石川浩一, 堀直博, 浅野伍朗:
ケロイド、正常皮膚境界部についての病理組織学研究
第34回日本形成外科学会総会 (1991)
- 新井克志, 伊藤嘉恭, 中井完治, 谷口靖, 宮下哲:
サーモグラフィー法による血管穿通枝の確認について
第34回日本形成外科学会総会 (1991)
- 新井克志: ケロイドに対するヒスタミン遊離抑制剤の効果
第3回免疫薬物療法研究会 (1991)
- 伊藤嘉恭, 川上孝一, 水野博司, 新井克志:
腹直筋穿通動脈皮弁の挙上法についての解剖学的検討
第162回日本形成外科学会東京地方会 (1991)
- 伊藤嘉恭, 川上孝一, 水野博司, 新井克志:
我々が行なっている腹直筋穿通動脈皮弁の効率的な挙上法
第162回日本形成外科学会東京地方会 (1991)
- 伊藤嘉恭, 新井克志:
腹直筋穿通動脈皮弁と Silicone sheet を利用した prefabricated portion を有する腹直筋皮弁との比較
第3回日中形成外科学術交流会 (1991)

BIBLIOGRAPHY



- 川上孝一, 伊藤嘉恭, 水野博司, 石川浩一, 新井克志:
後頭部に発生した巨大な Solitary Neurofibroma の一例
第 165 回日本形成外科学会東京地方会 (1992)
- 水野博司, 伊藤嘉恭, 川上孝一, 宮田成章, 中井完治, 新井克志, 三村一夫:
広背筋皮弁により再建された乳房の長期 Follow up
第 37 回防衛衛生学会 (1992)
- 宮田成章, 伊藤嘉恭, 川上孝一, 水野博司, 新井克志, 三村一夫:
腹直筋穿通動脈皮弁の臨床応用
第 37 回防衛衛生学会 (1992)
- 石川誠彦, 伊藤嘉恭, 堀直博, 石川浩一, 谷口靖, 宮下哲, 藤野和浩, 新井克志,
三村一夫, 永田一郎:
Prefabrication をおこなった腹直筋皮弁の臨床応用について
第 37 回防衛衛生学会 (1992)
- 宮下哲, 伊藤嘉恭, 谷口靖, 藤野和浩, 新井克志:
右橈骨動脈を栄養血管として左上腕に移植した遊離肩甲皮弁の 1 例
第 37 回防衛衛生学会 (1992)
- 中井完治, 伊藤嘉恭, 堀直博, 石川浩一, 谷口靖, 宮下哲, 藤野和浩, 水野博司,
川上孝一, 新井克志, 三村一夫:
血管柄付遊離組織移植による外鼻再建の経験
第 37 回防衛衛生学会 (1992)
- 伊藤嘉恭, 川上孝一, 水野博司, 宮田成章, 中井完治, 石川浩一, 新井克志:
恥骨付腹直筋穿通動脈皮弁による頬部陥凹変形の 1 治験例
第 166 回日本形成外科学会東京地方会 (1992)
- 伊藤嘉恭, 水野博司, 川上孝一, 石川浩一, 新井克志, 三村一夫:
腹直筋穿通動脈皮弁の薄さの限界
第 35 回日本形成外科学会学術集会 (1992)
- 伊藤嘉恭, 川上孝一, 水野博司, 石川浩一, 新井克志:
恥骨付腹直筋穿通動脈皮弁の経験
第 35 回日本形成外科学会総会 (1992)

BIBLIOGRAPHY



水野博司, 伊藤嘉恭, 川上孝一, 堀直博, 石川浩一, 谷口靖, 宮下哲, 藤野和浩,
新井克志:

広背筋皮弁による乳房再建例の長期 Follow up
—筋体の萎縮について—
第 35 回日本形成外科学会総会 (1992)

水野博司, 伊藤嘉恭, 川上孝一, 宮田成章, 中井完治, 新井克志:

硫化水銀 (HgS) 含有色素による背部刺青のため接触性皮膚炎を
起こした 1 例
第 167 回日本形成外科学会東京地方会 (1992)

伊藤嘉恭, 新井克志, 宮田成章, 中井完治, 石川誠彦, 川上浩一, 水野博司:

サーモグラフィーを利用した皮膚穿通動脈皮弁の挙上
第 9 回日本サーモロジー学会 (1992)

Itoh Y, Arai K:

Fundamental experiments of secondary vascularized flaps
with silicone sheets.
The 9th Congress of the International Confederation for
Plastic and Reconstructive Surgery (1992)

伊藤嘉恭, 宮田成章, 中井完治, 石川誠彦, 川上浩一, 水野博司, 新井克志:

広背筋皮膚穿通動脈を栄養血管とした皮弁
—サーモグラフィーを利用して—
第 168 回日本形成外科学会東京地方会 (1992)

伊藤嘉恭, 宮田成章, 中井完治, 石川誠彦, 川上浩一, 水野博司, 新井克志:

軀幹背側の穿通枝皮弁 —サーモグラフィーを利用した挙上—
第 19 回日本マイクロサージェリー学会 (1992)

伊藤嘉恭, 秋山太, 新井克志:

恥骨付腹直筋皮弁についての解剖学的検討
第 19 回日本マイクロサージェリー学会 (1992)

新井克志, 伊藤嘉恭, 石川浩一, 川上孝一, 水野博司, 浅野伍郎:

Cancroid, Chelolde, keloid とその定義について
第 1 回日本形成外科学会基礎学術集会 (1992)

BIBLIOGRAPHY



- 秋山太, 伊藤嘉恭, 堀直博, 石川浩一, 新井克志:
尿道移行手術を要した先天性副腎過形成の一例
第 171 回日本形成外科学会東京地方会 (1992)
- 秋山太, 伊藤嘉恭, 堀直博, 石川浩一, 新井克志:
臀部に発生した巨大表在性脂肪腫性母斑の一例
第 172 回日本形成外科学会東京地方会 (1993)
- 武井貞治, 伊藤嘉恭, 堀直博, 石川浩一, 新井克志:
下顎部に発生した先天性局所性多毛症の一例
第 173 回日本形成外科学会東京地方会 (1993)
- 石川浩一, 伊藤嘉恭, 堀直博, 水野博司, 川上孝一, 宮田成章, 新井克志:
Tissue expander と de-epithelialized TRAM flap を用いた
乳房再建
第 36 回日本形成外科学会総会 (1993)
- 伊藤嘉恭, 新井克志, 宮田成章, 水野博司, 川上孝一, 石川誠彦:
穿通枝皮弁の概念と皮弁分類上の位置付け
—サーモグラフィーによる検討から—
第 36 回日本形成外科学会総会 (1993)
- 伊藤嘉恭, 新井克志, 堀直博, 石川浩一, 秋山太, 難波節子, 武井貞治:
荷重部再建後潰瘍再発をくり返した症例
第 36 回日本形成外科学会総会 (1993)
- 秋山太, 伊藤嘉恭, 堀直博, 石川浩一, 難波節子, 新井克志:
外性器異常における陰核形成の経験
第 36 回日本形成外科学会総会 (1993)
- 伊藤嘉恭, 堀直博, 石川浩一, 武井貞治, 難波節子, 新井克志:
穿通枝を利用した thin flap の作成と臨床応用について
第 18 回日本外科系連合学会学術集会 (1993)
- 石川浩一, 伊藤嘉恭, 武井貞治, 堀直博, 難波節子, 新井克志:
異所性唾液腺を伴う両側側頸瘻の家族内発生例
第 176 回日本形成外科学会東京地方会 (1993)

BIBLIOGRAPHY



Itoh Y, Arai K:

Preparation of perforator-based flap using thermography and clinical applications.

The 6th Asian Pacific congress of IPRS (1993)

伊藤嘉恭, 石川誠彦, 谷口靖, 宮下哲, 新井克志:

レーザードプラー血流計による皮弁循環動態の検討

—平均赤血球流量、赤血球数、平均赤血球速度—

第 177 回日本形成外科学会東京地方会 (1993)

新井克志: 乳腺 subareolar region の病変の診断、治療の最近の動向

第 13 回日本臨床細胞学会埼玉県支部埼玉県臨床細胞医会 (1994)

谷口靖, 伊藤嘉恭, 石川浩一, 新井克志:

浅側頭動脈島状皮弁を用いた眉毛再建

第 39 回防衛衛生学会 (1994)

水野博司, 伊藤嘉恭, 新井克志:

防衛医大病院における多合指症の臨床統計と治療成績

第 39 回防衛衛生学会 (1994)

石川誠彦, 伊藤嘉恭, 新井克志:

先天耳介奇形の総計的観察

第 39 回防衛衛生学会 (1994)

宮崎典幸, 伊藤嘉恭, 堀直博, 新井克志:

Expanded Latissimus Dorsi myocutaneous flap による広範囲
上腕色素性母斑の 1 治療例

第 39 回防衛衛生学会 (1994)

宮下哲, 伊藤嘉恭, 水野博司, 新井克志:

防衛医科大学病院 15 年間における口唇・口蓋裂患者の統計的検索

第 39 回防衛衛生学会 (1994)

堀直博, 伊藤嘉恭, 石川浩一, 武井貞治, 秋山太, 難波節子, 新井克志:

静脈皮弁の小経験

第 39 回防衛衛生学会 (1994)

BIBLIOGRAPHY



堀直博, 伊藤嘉恭, 石川浩一, 難波節子, 武井貞治, 秋山太, 宮崎典幸, 新井克志:
我々の臍再建法
第39回防衛衛生学会 (1994)

中島章夫, 荒井恒憲, 菊地眞, 岩谷昭美, 新井克志, 三村一夫:
KrF エキシマレーザーによる焼痂 (ESCHER) のデブリードマンにお
ける関節型マニピュレータ装置の開発
第39回防衛衛生学会 (1994)

水野博司, 伊藤嘉恭, 堀直博, 石川浩一, 谷口靖, 宮下哲, 石川誠彦, 宮崎典幸,
新井克志:
軸後性多合趾症の治療に関する検討
第37回日本形成外科学会学術集会 (1994)

伊藤嘉恭, 堀直博, 水野博司, 石川誠彦, 宮下哲, 谷口靖, 石川浩一, 宮崎典幸,
新井克志:
植皮を行わない合趾症手術 —皮下茎伸展皮弁による趾間形成術—
第37回日本形成外科学会学術集会 (1994)

中島章夫, 荒井恒憲, 菊地眞, 岩谷昭美, 新井克志:
KrF エキシマレーザー熱傷痂皮蒸散のリアルタイムモニター
反射戻り光強度測定と時間分解写真による検討
第8回防衛医科大学校医学会研究発表会 (1994)

中島章夫, 荒井恒憲, 菊地眞, 岩谷昭美, 新井克志, 三村一夫:
KrF エキシマレーザーによる熱傷痂皮蒸取時のリアルタイム
モニター
第33回日本ME学会大会 (1994)

中島章夫, 荒井恒憲, 菊地眞, 岩谷昭美, 新井克志, 稲崎聡, 高岡秀嗣, 加藤昌由:
KrF エキシマレーザー熱傷痂皮蒸散のリアルタイムモニター
—反射戻り光強度測定の時間分解写真による検討—
第15回日本レーザー医学会大会 (1994)

中島章夫, 荒井恒憲, 菊地眞, 岩谷昭美, 新井克志, 三村一夫:
関節型マニピュレータ装置を用いた KrF エキシレーザーによる熱傷
痂皮蒸散の基礎的検討
第69回日本医科器械学会大会 (1994)

BIBLIOGRAPHY



- 中島章夫, 荒井恒憲, 菊地眞, 岩谷昭美, 新井克志, 三村一夫:
KrF レーザーによる血液滲出時の熱傷痂皮蒸散の基礎的検討
レーザー学会学術講演会第 14 回年次大会 (1994)
- 堀直博, 伊藤嘉恭, 石川浩一, 難波節子, 武井貞治, 秋山太, 宮崎典幸, 新井克志:
我々の臍再建法
第 37 回日本形成外科学会学術集会 (1994)
- 伊藤嘉恭, 石川誠彦, 新井克志:
PGE₁ 軟膏塗布面における dye laser の効果についての検討
第 3 回日本形成外科学会基礎学術集会 (1994)
- Ishikawa M, Itoh Y, Arai K:
The elevation of the laser Doppler flowmeter in the
experimental burn models.
The 9th Congress of the International Society for Burn
Injuries (1994)
- Itoh Y, Arai K:
A new surgical method without skin grafts for the
polysyndactyly and syndactyly of the foot.
The 7th Asean Congress of Plastic and Reconstructive
Surgery (1994)
- Ishikawa M, Itoh Y, Arai K:
The measurement of blood flow in burn models.
The 7th Asean Congress of Plastic and Reconstructive
Surgery (1994)
- Itoh Y, Ishikawa M, Igota S, Arai K:
Evaluation of laser Doppler flowmeter for monitoring of the
experimental free flaps.
The 12th Congress of the International Microsurgical
Society (1994)
- 松浦英一, 中山凱夫, 渡辺信雄, 浅野重之, 新井克志:
Proteus 症候群の 1 例に対する外科的治療とその臨床経過
第 38 回日本形成外科総会学術集会 (1995)

BIBLIOGRAPHY



- 宮下哲, 新井克志, 谷口靖, 水野博司, 川上孝一, 宮田成章, 伊吾田慎一:
皮弁の安全な作成方法について
第 38 回日本形成外科学会学術集会 (1995)
- 谷口靖, 新井克志, 宮下哲, 水野博司, 川上孝一, 宮田成章:
我々のケロイド治療の理論とその臨床応用
第 38 回日本形成外科学会学術集会 (1995)
- 宮田成章, 新井克志, 谷口靖, 宮下哲, 水野博司, 川上孝一, 古谷健一, 永田一郎:
皮膚粘膜欠損部における自己細胞増殖による治療について
第 38 回日本形成外科学会学術集会 (1995)
- 宮下哲, 新井克志, 伊藤嘉恭, 谷口靖, 石川誠彦, 水野博司:
血管穿通枝とサーモグラフィー
第 40 回防衛衛生学会 (1995)
- 伊吾田慎一, 新井克志, 石川浩一, 堀直博, 谷口靖, 宮田成章:
ケロイド治療についての我々の考え方
第 40 回防衛衛生学会 (1995)
- 谷口靖, 堀直博, 新井克志:
色素レーザーによる単純性血管腫の治療
第 40 回防衛衛生学会 (1995)
- 宮田成章, 新井克志:
皮膚保存法の検討 — 4°C低酸素下保存について —
第 40 回防衛衛生学会 (1995)
- 松浦英一, 新井克志, 川上孝一, 宮田成章:
Free Flap 68 例に対するプロスタグランデインの使用とその
生着成績
第 3 回埼玉プロスタグランデイン E₁ 研究会 (1995)
- 松浦英一, 新井克志, 川上孝一, 宮田成章, 難波節子:
顕微鏡下微小血管吻合の手技を用いた Free Flap 68 例の経験
第 3 回日本血管外科学会関東甲信越地方会 (1995)

BIBLIOGRAPHY



- 水野博司, 新井克志, 宮田成章, 川上孝一, 谷口靖, 宮下哲, 松浦英一:
Cholera Toxin を用いたラット同種皮膚移植に関する実験的研究
第 4 回日本形成外科学会基礎学術集会 (1995)
- 宮田成章, 新井克志, 川上孝一, Ghazizadeh M:
AgNOR を用いたケロイド線維芽細胞の分裂活性の検討
第 4 回日本形成外科学会基礎学術集会 (1995)
- 新井克志, 石川浩一:
ケロイド治療についての研究: 特に病理組織学的検討を中心に
第 2 回ケロイド・肥厚性瘢痕研究会 (1995)
- 川上孝一, 谷口靖, 宮下哲, 荒井恒憲, 萱嶋信介, 菊池眞, 新井克志, 村上志緒,
久野耕司:
ArF エキシマレーザーを用いた皮膚表層の剥削実験
吸引滲出液の採取のための前処理法としての検討
第 16 回日本レーザー医学大会 (1995)
- 川上孝一, 宮下哲, 谷口靖, 荒井恒憲, 萱嶋信介, 菊池眞, 新井克志, 村上志緒:
ダンシルクロライドを用いた蛍光観察による角質厚み測定
第 16 回日本レーザー医学大会 (1995)
- 石川浩一, 若松信吾, 新井克志:
増殖期ケロイド肥満細胞の興味ある脱顆粒方式について
第 192 回日本形成外科学会関東支部東京地方会 (1995)
- Itoh Y, Ishikawa M, Arai K:
Effect of dye laser with prostaglandin E₁ ointment.
The 11th Congress of the international Confederation of
Plastic reconstructive and aesthetic Surgery (1995)
- Nakajima A, Arai T, Kikuchi M, Arai K, Iwaya A, Inazaki S, Takaoka H,
Kato M:
The monitoring of KrF excimer laser ablation for burn scar:
A comparative study of transient reflection measurement and
time-resolved photography.
SPIE Biomedecol Optics (1995)

BIBLIOGRAPHY



- 松浦英一, 新井克志, 難波節子, 中山凱夫, 浅野重之:
小児に発生した稀な耳下腺腺房細胞腫の1例
第14回日本臨床皮膚外科学会 (1996)
- 宮田成章, 松浦英一, 川上孝一, 難波節子, 伊吾田慎一, 新井克志:
約一年間放置されていたカッターナイフによる成人眼窩内異物の一例
第194回日本形成外科学会関東支部東京地方会 (1996)
- 松浦英一, 新井克志, 水野博司, 宮田成章, 石川浩一:
ケロイド, 肥厚性瘢痕形成細胞の起源に関する形態学的検討
第5回日本形成外科学会基礎学術集会 (1996)
- 宮田成章, 新井克志, 松浦英一, 川上孝一, 難波節子:
ケロイドの臨床経過
一環境による持続性・表現型の相違についての小経験—
第39回日本形成外科学会学術集会 (1996)
- 宮田成章, 新井克志, 松浦英一, 川上孝一, 難波節子:
悪性化を来たしたと考えられる脂肪腫の一例
第39回日本形成外科学会学術集会 (1996)
- 谷口靖, 新井克志, 水野博司, 難波節子:
反対側逆行性眼角動脈皮弁の応用についての検討
第39回日本形成外科学会学術集会 (1996)
- 松浦英一, 新井克志, 川上孝一, 宮田成章, 難波節子, 高木啓吾:
胸壁全層欠損におけるチタンメッシュプレートとマーロックスメッシュプレートの併用についての小経験
第39回日本形成外科学会学術集会 (1996)
- 宮田成章, 伊吾田慎一, 松浦英一, 新井克志:
コラーゲン溶液による皮膚冷蔵保存の検討
第196回日本形成外科学会関東支部東京地方会 (1996)

BIBLIOGRAPHY



Noguchi I, Sato Y, Ando T, Kurokawa H, Takahashi M, Hinata H,
Uematsu M, Arai K, Matsuura E:

Simultaneous Carboplatin and Radiation Therapy in Oral
Squamous Cell Carcinoma.

Jubilee Congress of the European Association for
Cranio-Maxillofacial Surgery (1996)

宮田成章, Ghazizadeh M, 新井克志, 阿部清秀:

ケロイド表皮増殖活性の検討

第6回日本形成外科学会基礎学術集会 (1997)

宮田成章, 伊吾田慎一, 新井克志, 阿部清秀:

コラーゲンによる皮膚冷蔵保存法の検討

第6回日本形成外科学会基礎学術集会 (1997)

秋山太, 松浦英一, 難波節子, 宮崎典幸, 新井克志:

植皮・皮弁を用いない皮膚・粘膜欠損治療の経験 (第2報)

第40回日本形成外科学会学術集会 (1997)

伊吾田慎一, 新井克志, 松浦英一, 谷口靖, 難波節子, 石川浩一:

ケロイド発生・増殖に関する興味ある所見について

第40回日本形成外科学会学術集会 (1997)

難波節子, 新井克志, 秋山太, 石川浩一:

我々の上唇結節形成術について

第40回日本形成外科学会学術集会 (1997)

松浦英一, 新井克志, 中山凱夫, 遠藤隆志:

大腿筋膜張筋皮弁を用いた口腔底咽頭頸部食道全欠損の再建

第40回日本形成外科学会学術集会 (1997)

村上志緒, 下斗米敬, 伊藤成史, 斎藤隆, 川上孝一, 谷口靖, 宮下哲, 難波節子,
新井克志, 荒井恒憲, 萱嶋信介:

ArF エキシマレーザーを用いた角質除去法: 吸引浸出液採取のため
の条件

第36回日本ME学会大会 (1997)

BIBLIOGRAPHY



宮下哲, 新井克志:

血管穿通枝とサーモグラフィー
第 14 回日本サーモロジー学会 (1997)

松浦英一, 新井克志, 難波節子, 伊吾田慎一, 石川浩一:

ケロイド、肥厚性瘢痕形成細胞の起源に関する形態学的検討 (第 2 報)
第 6 回日本形成外科学会基礎学術集会 (1997)

松浦英一, 難波節子, 秋山太, 宮崎典幸, 伊吾田慎一, 新井克志, 中山凱夫:

四肢外傷における形成外科的再建症例と Prostaglandin E_1 の使用
について
埼玉プロスタンデイン E_1 研究会 (1997)

松浦英一, 新井克志:

ヒト増殖期ケロイド組織におけるケロイド形成細胞の起源に関する
形態学的検討
第 4 回ケロイド・肥厚性瘢痕研究会 (1998)

秋山太, 新井克志, 松浦英一, 宮崎典幸, 伊吾田慎一:

ケロイド形成過程における細胞質突起の役割について
第 7 回日本形成外科学会基礎学術集会 (1998)

秋山太, 新井克志, 松浦英一, 宮崎典幸, 伊吾田慎一, 扇博之, 東隆一:

血流改善に対する貼布用磁気治療器の効果の検討
第 15 回日本サーモロジー学会 (1998)

宮崎典幸, 新井克志, 松浦英一, 秋山太, 伊吾田慎一, 扇博之, 東隆一:

顔面血管穿通枝に対するサーモグラフィー的検討
第 15 回日本サーモロジー学会 (1998)

伊吾田慎一, 新井克志, 松浦英一, 秋山太, 宮崎典幸, 扇博之, 東隆一:

細長い皮弁に対するサーモグラフィーの応用
第 15 回日本サーモロジー学会 (1998)

伊吾田慎一, 新井克志, 松浦英一, 秋山太, 宮崎典幸, 扇博之:

我々の行っているケロイドくり抜き法についての検討
第 41 回日本形成外科学会学術集会 (1998)

BIBLIOGRAPHY



- 扇博之, 新井克志, 松浦英一, 秋山太, 宮崎典幸:
皮下 Millard 法、V-Y plasty 法についての検討
第 41 回日本形成外科学会学術集会 (1998)
- 松浦英一, 新井克志, 伊吾田慎一, 東隆一, 扇博之:
内シャント作成術におけるフィブリン糊使用の臨床的検討
第 41 回日本形成外科学会学術集会 (1998)
- 松浦英一, 新井克志, 宮崎典幸, 秋山太, 伊吾田慎一, 東隆一:
ケロイド治療についての検討 —ケロイド形成細胞を中心に—
第 41 回日本形成外科学会学術集会 (1998)
- 伊吾田慎一, 新井克志, 池見佳一郎:
ケロイド、肥厚性瘢痕とセロトニン
第 4 回関東甲信越セロトニン研究会 (1999)
- 伊吾田慎一, 新井克志, 大竹登志江, 千々和剛, 佐藤俊次:
細胞機能の分析におけるケロイド治療についての検討
第 5 回ケロイド・肥厚性瘢痕研究会 (1999)
- 伊吾田慎一, 松浦英一, 水野博司, 山本直人, 東隆一, 千々和剛, 大竹登志江,
新井克志:
当科における顕微鏡下微小血管吻合の手技を用いた再建症例の検討
第 27 回日本血管外科学会総会 (1999)
- 伊吾田慎一, 松浦英一, 山本直人, 千々和剛, 大竹登志江, 新井克志:
前外側大腿皮弁の臨床経験
第 42 回日本形成外科学会学術集会 (1999)
- 千々和剛, 新井克志, 宮崎典幸:
サーモグラフィーによる顔面血管穿通枝 MAP の作成について
第 42 回日本形成外科学会学術集会 (1999)
- 新井克志, 伊吾田慎一, 難波節子, 扇博之, 池見佳一郎:
ケロイド、くり抜き法変法の理論的考察
第 42 回日本形成外科学会学術集会 (1999)

BIBLIOGRAPHY



- 水野博司, 伊吾田慎一, 新井克志:
腹壁再建を要した腹壁デスマイド腫瘍の一例
第37回日本形成外科学会中国四国支部学術集会 (1999)
- 吉本奈加, 新井克志, 山本直人, 伊吾田慎一, 千々和剛:
胸部穿通枝 Map について
第16回日本サーモロジー学会 (1999)
- 伊吾田慎一, 新井克志, 山本直人, 吉本奈加, 肥後雪子:
ケロイド形成における、平滑筋系細胞、筋線維芽細胞、線維芽細胞
についての検討
第8回日本形成外科学会基礎学術集会 (1999)
- 東隆一, 新井克志:
増殖期ケロイドの正常皮膚侵潤部位における種々細胞の細胞突起に
ついて
第8回日本形成外科学会基礎学術集会 (1999)
- 千々和剛, 大野聡, 一関英昭, 大江暢, 山本直人, 新井克志:
顔面小外科における歯科ユニットの有用性について
第45回防衛衛生学会 (2000)
- 東隆一, 水野博司, 扇博之, 南部正樹, 山本直人, 新井克志:
自衛隊医官の教育と自衛隊医療における形成外科の現状と展望
第43回日本形成外科学会学術集会 (2000)
- 山本直人, 清澤智晴, 伊吾田慎一, 新井克志, 東隆一, 中山凱夫:
広背筋切除を伴う比較的大きな背部・側胸部組織欠損の再建
第43回日本形成外科学会学術集会 (2000)
- 南部正樹, 新井克志, 山本直人, 東隆一:
Serial excision の1回目手術に Z-plasty を応用する術式
第43回日本形成外科学会総会学術集会 (2000)
- 南部正樹, 新井克志, 山本直人, 東隆一, 扇博之, 清澤智晴:
増殖期ケロイドの正常皮膚浸潤部位における肥満細胞の細胞突起
の役割
第9回日本形成外科学会基礎学術集会 (2000)

BIBLIOGRAPHY



- 東隆一, 扇博之, 南部正樹, 山本直人, 新井克志:
紡錘形切除に Z-plasty を加える事による幾何学的変化に関する考察
第 9 回日本形成外科学会基礎学術集会 (2000)
- 山本直人, 新井克志, 東隆一, 扇博之, 青木伸峰:
皮膚創傷治癒における真皮線維ネットワークの再構築過程について
第 7 回ケロイド・肥厚性瘢痕研究会 (2001)
- 山本直人, 新井克志:
NaOH 浸軟法走査電顕による結合組織性毛包の観察
第 7 回日本アジア臨床毛髪外科学会 (2001)
- 山本直人, 新井克志, 東隆一, 扇博之, 青木伸峰:
電動デバイスによる手背・手関節損傷の 2 症例
第 44 回日本形成外科学会総会学術集会 (2001)
- 扇博之, 新井克志, 山本直人, 東隆一, 千々和剛, 大竹登志江:
当院外来患者におけるケロイドに関する統計と考察
第 44 回日本形成外科学会総会学術集会 (2001)
- 大竹登志江, 新井克志, 山本直人, 東隆一, 扇博之, 千々和剛, 南部正樹:
何故、それはそこにあるのか 一比較的大きな顔面色素性母斑の
局在に関する統計と考察一
第 44 回日本形成外科学会総会学術集会 (2001)
- 千々和剛, 大竹登志江, 扇博之, 山本直人, 新井克志:
当科における顔面骨骨折についての検討
第 44 回日本形成外科学会総会学術集会 (2001)
- 東隆一, 山本直人, 扇博之, 新井克志:
当科でのプロスタンディン使用法について
埼玉プロスタンディン E₁ 研究会 (2001)
- 山本直人, 新井克志, 東隆一, 扇博之:
皮膚創傷治癒の新しい概念: 表皮化と真皮線維再構築の相互依存的
動態 (I)
第 10 回日本形成外科学会基礎学術集会 (2001)

BIBLIOGRAPHY



山本直人, 新井克志, 東隆一, 扇博之:
皮膚創傷治癒の新しい概念: 表皮化と真皮線維再構築の相互依存的
動態 (II)
第 10 回日本形成外科学会基礎学術集会 (2001)

中村真一郎, 勝碇譲児, 新井克志, 水野博司:
ヒト脂肪組織による Tissue Engineering —軟骨への分化—
第 47 回防衛衛生学会 (2002)

勝碇譲児, 中村真一郎, 新井克志, 水野博司:
ヒト脂肪組織による Tissue Engineering —骨格筋への分化—
第 47 回防衛衛生学会 (2002)

特別講演

新井克志: ケロイド・肥厚性瘢痕の成因と治療について
第 63 回日本美容外科学会 (1993)

新井克志: ケロイドとは、そしてその治療について
第 13 回日本臨床皮膚外科学会 (1994)

シンポジウム

藤田恵一, 新井克志:
皮膚科におけるレーザー療法
第 33 回日本皮膚科学会西部学会 (1981)

BIBLIOGRAPHY



- Arai K, Azuma T, Itoh Y, Sato T:
Fundamental and clinical studies on the role of Nd-YAG
laser in surgery.
International Nd-YAG Laser Symposium (1986)
- 新井克志: サーマグラフィーによる皮弁の生着範囲の決定についての検討
第 32 回日本形成外科学会 (1989)
- 新井克志: レックリングハウゼン氏病の形成外科的治療
第 40 回日本皮膚科学会 (1989)
- 新井克志: 乳房再建
第 28 回埼玉県医学会総会 (1991)
- 新井克志: 乳腺 subareolar region の病変の診断・治療の最近の動向
第 13 回日本臨床細胞学会埼玉県支部埼玉県臨床細胞医会 (1994)
- 新井克志: 我々の乳房再建手術についての検討
第 7 回埼玉乳がん懇話会 (2001)

学会主催

日本サーモロジー学会 第 15 回大会 会長 1998 東京

著述、その他

新井克志: 形成外科とは 埼玉新聞 2 月 6 日 (1982)

BIBLIOGRAPHY



- 新井克志: みつ口について 埼玉新聞 2月10日 (1982)
- 新井克志: 小耳症 埼玉新聞 2月20日 (1982)
- 新井克志: 埋没耳・立ち耳 埼玉新聞 3月3日 (1982)
- 新井克志: やけどについて 埼玉新聞 3月6日 (1982)
- 新井克志: ケロイド・ひきつれについて 埼玉新聞 3月10日 (1982)
- 新井克志: 手の奇形について 埼玉新聞 3月15日 (1982)
- 新井克志: 多指症について 埼玉新聞 3月17日 (1982)
- 新井克志: 足の形の異常について 埼玉新聞 3月20日 (1982)
- 新井克志: 交通事故などによる傷痕と変形 埼玉新聞 3月22日 (1982)
- 新井克志: 形成外科における移植 埼玉新聞 4月3日 (1982)
- 新井克志: 乳癌手術後の乳房再建 埼玉新聞 4月12日 (1982)
- 新井克志: 悪性腫瘍切除後の顔の再建 埼玉新聞 4月17日 (1982)
- 新井克志: 食道の再建 埼玉新聞 4月19日 (1982)
- 新井克志: 顔のけがについて 埼玉新聞 4月21日 (1982)
- 新井克志: 顔の骨折について 埼玉新聞 5月1日 (1982)
- 新井克志: 吹き抜け骨折について 埼玉新聞 5月3日 (1982)
- 新井克志: 赤あざの種類と治療について 埼玉新聞 5月5日 (1982)
- 新井克志: 黒あざ (母斑) の治療について 埼玉新聞 5月10日 (1982)
- 新井克志: はげについて 埼玉新聞 5月15日 (1982)

BIBLIOGRAPHY



- 新井克志: まゆ毛・まつ毛などの欠損とその再建 埼玉新聞 5月24日(1982)
- 新井克志: ケロイドについて 埼玉新聞 5月26日(1982)
- 新井克志: 形成外科領域におけるレーザー治療について 埼玉新聞 6月5日
(1982)
- 新井克志: 美容外科について 埼玉新聞 6月9日(1982)
- 新井克志: 坂本竜馬の著作といわれた日本の民主主義の原点といえる
「藩論」の著者について
歴史研究 387号(1993)
- 新井克志: 坂本龍馬と日本の民主主義
学と文芸 58集 学と文芸会 札幌(1993)
- 新井克志: ビルマ・ミャンマーの民主化とアウン・サン将軍、
その娘スー・チー女史
学と文芸 59集 学と文芸会 札幌(1994)
- 新井克志: 龍馬は「世界の海援隊」で何を
学と文芸 60集 学と文芸会 札幌(1994)
- 新井克志: ビルマ・ミャンマー民主化に対する提案
学と文芸 63集 学と文芸会 札幌(1995)
- 新井克志: 病は気から成人病とストレス
学と文芸 65集 学と文芸会 札幌(1995)
- 新井克志: スー・チー女史に理解と支援を
学と文芸 68集 学と文芸会 札幌(1996)
- 新井克志: ビルマ・ミャンマー軍事政権の犯した惨劇
学と文芸 76集 学と文芸会 札幌(1998)
- 新井克志: 日本経済と灰色の金、そして正義
学と文芸 80集 学と文芸会 札幌(1999)

BIBLIOGRAPHY



- 新井克志: 何故、人々の心に大きく残る 今なお田中角栄氏。"何故?" (1)
学と文芸 80 集 学と文芸会 札幌 (1999)
- 新井克志: 何故、人々の心に大きく残る 今なお田中角栄氏。"何故?" (2)
学と文芸 81 集 学と文芸会 札幌 (1999)
- 新井克志: 何故、人々の心に大きく残る 今なお田中角栄氏。"何故?" (3)
学と文芸 82 集 学と文芸会 札幌 (1999)
- 新井克志: 何故、人々の心に大きく残る 今なお田中角栄氏。"何故?" (4)
学と文芸 84 集 学と文芸会 札幌 (2000)
- 新井克志: 何故、人々の心に大きく残る 今なお田中角栄氏。"何故?" (5)
学と文芸 86 集 学と文芸会 札幌 (2000)
- 新井克志: ケロイド、キッセイ薬品リザベン、そして研究の思い出
学と文芸 86 集 学と文芸会 札幌 (2000)
- 新井克志: 何故、人々の心に大きく残る 今なお田中角栄氏。"何故?" (6)
学と文芸 87 集 学と文芸会 札幌 (2001)
- 新井克志: 何故、人々の心に大きく残る 今なお田中角栄氏。"何故?" (7)
学と文芸 89 集 学と文芸会 札幌 (2001)
- 新井克志: 何故、人々の心に大きく残る 今なお田中角栄氏。"何故?" (8)
学と文芸 90 集 学と文芸会 札幌 (2001)



日本経済と灰色の金、そして正義

新井克志

バブルがはじけて久しい。現在さらなる経済の悪化も懸念されている。

日本の経済、かつては米国に追いつくのではないかとわれた。強さがあった。

さて、いきもの世界、まさに弱肉強食、これは悲しいことではあるが「自然の摂理」である。弱者は亡びていった。消えていった。人間の世界も当然例外ではない。

現在の日本経済、一連の不詳事件など、これを支える骨組みががたがた、まさに弱者になってしまった。官庁、銀行、企業などの中核にいる人達、何が起こるか戦々恐々、すっかり怯えきっている。彼らが元気に力強く機能しなければ喰われてしまう、立ち直れない。

このようなとき正義、正義といって追求が過ぎると、日本経済は完全に破綻してしまう。正義の大合唱も良いが、日本の経済、亡ぼしてしまっは元も子もない。人間は常に欲望で行動するともいわれている。欲望と正義はなかなか共存しない。

しかし、経済は人間の欲望で機能しているのだ。動いているのだ。正義で動いているのではない。「正義の白い金」のみで動いているのではない。灰色の金、黒い金もあるのだ。駆け引き、騙し、足を引っ張る、邪魔する、油断、すきにつけ込む、利用する、だし抜き・・・経済とはこういう世界なのだ。

このように経済の多くの部分は、「灰色の

金」で動いているといえる。何年か前の日本、桜は満開であった。白い肥料、灰色の肥料、黒い肥料、まさに肥料は十分にあった。経済大国日本はこうして出来たのだ。世界断突一位の一二〇〇兆円の貯蓄もこうしてできたのだ。この一二〇〇兆円のお陰で、わが日本、この不況のなか何とか持ちこたえている。

中国の改革、開放のリーダーであった故鄧小平氏もこんなことを言っている。「黒猫だろうが、白猫だろうが、ネズミをとる猫はいい猫だ」と。現在のアジアの経済危機の中、欧米に抵抗し、独自の経済再生をめざしているマレーシアのマハティール首相も、「プラグマティックに政策を行わないといけない。猫は黒でも白でもかまわない。どんな猫でもネズミを捕るのがうまければいいのだ。」と述べている。要するに経済の発展、繁栄は、「正義のみでもって」などときれいごとではとても勝取れないということである。

繰り返すが、経済は「灰色の金」で活気をおびるのだ。世界の経済は、前述のごとく、駆け引き、騙し、足のひっぱりあい、だし抜き、こんなことが大きな渦を作って動いている。弱肉強食とは何ととっても確実に「自然の摂理」なのでだ。「正義をもって、クリーンで豊かな平和な世界を」とよく言われる。非現実的である。経済に関して、これは。自分の心の底をしっかりと覗いてみればわかる。

「自分は常に心正しい人間である」と言いきれぬ人があるだろうか。これは人間の歴史を考えてみても分かる。まさに弱肉強食であった。我々の祖先は他の生物を残酷に征服し、彼らから彼らの文化、科学の伝達を奪いとり、彼らの進歩を止めてしまった。こうして人間社会を作りあげたのだ。要するに今までの人間社会において、さらに広げて有史来の地球において、正義のみでもって理想の世の中を作ること、これはあり得なかったのだ。

私たちは現実的に行動しなければならない。

近年、市民オンブズマンの人達が「正義」の旗印を掲げて活動している。はやりになっている。良いことである。改善した面も多い。しかしここで注意しなければならないことは、必ずしも彼らが特別に正義感が強いのではないということだ。全てにおいて我々と同じなのだ。彼らの中にもヒステリックに妬み、嫉みでもって、権力や権力者たちに執拗に鬱憤をはらそうとする人達、またこれを自分の仕事のなかに利用する生臭い人達、したたかな人達も多い。単純に目立ちたがりの人もいる。彼らは時に正義の快感に酔い暴走することもある。

とにかくこのようなことは行き過ぎると知らないうちに社会に対し、経済に対し命取りになる。例えば中小企業が消えてゆく、地域の商店街が寂れる、失業者が増えてゆく、税金が入らなくなる。これは福祉、教育の予算などのカットにも繋がっていく。

このように極端にならないように、必要以上にならないように、私達は錦の御旗「正義」が暴走し、今までの環境を破壊しすぎないように、経済の再生、安定的繁栄に対しむし

ろ阻害する方向に働いてないか、また現実的に機能しているかなど、市民オンブズマンの人達の活動を注意深く見張っていかねばならない。

ひとたび起った「正義の公害」は「正義を掲げているため」修正がなかなかきかない。しばし、止まることがなく進んでしまう。時には全てをなぎ倒してゆく。(ナチスドイツ、日本のアジア侵略も原点も正義が旗印だったはずだ)

最後に重ねて繰り返すが日本経済の再生、繁栄には灰色の金、灰色の肥料も必要なのだ。ここまでできてしまった現在の日本の生活レベルを維持するには、正義のもつ白い金だけでは不可能なのだ。しかし、真っ黒な金だけは極力避けなければならない。

今の時代、このようなことをいうと袋叩きに合うかもしれない。しかし今の日本の経済を考えると、非常に重要なことと思う。敢えて言わせていただくことにした。

～ 『学と文芸』 80 集 (1999) より ～

同門の先生方

既在籍

| | | |
|------------|------------|-------------|
| 大慈弥 裕之 | 早稲田 豊美 (1) | 東 威志 (2) |
| 佐藤 俊次 (3) | 中野 峰生 (3) | 吉永 裕一郎 (4) |
| 伊藤 嘉恭 | 松浦 英一 | 石川 浩一 (9) |
| 谷口 靖 (10) | 堀 直博 (10) | 宮下 哲 (10) |
| 石川 誠彦 (11) | 川上 孝一 (11) | 水野 博司 (11) |
| 宮田 成章 (11) | 秋山 太 (12) | 武井 貞二 (12) |
| 難波 節子 (12) | 宮崎 典幸 (13) | 伊吾田 慎一 (14) |
| 東 隆一 (17) | | |

現在籍

| | | |
|------------------------|-------------|-------------|
| 早川 正道 (泌尿器科教授、兼形成外科部長) | 山本 直人 (助手) | |
| 扇 博之 (17) | 大竹 登志江 (18) | 千々和 剛 (18) |
| 小倉 奈加 (19) | 南部 正樹 (19) | 肥後 雪子 (19) |
| 青木 伸峰 (20) | 勝碯 譲児 (21) | 中村 真一郎 (21) |

(括弧内数字は防衛医大卒業期 年代および五十音順 敬称略)

非常勤講師： 光嶋 勲 (岡山大学大学院 形成再建外科教授)

あとがき



本記念業績集は現医局員によってすべて構成・編集いたしました。私にとってこのような仕事ははじめてでしたが、実に興味深い、また楽しいものでした。新井先生には形成外科に限らず、人の生き方そのものを教えていただいた気がします。業績集の最後にある『学と文芸』集はそのお人柄の表れです。この業績集からその一端を感じていただければ誠に光栄です。(山本)

新井先生には形成外科のみならず、様々なことを教えていただきました。最も驚かされるのは先生の優しさ、そして肝臓の強さです。私もお酒は沢山戴く方ですが、宴会で新井先生が何時間も（無限に？）ビールを飲み続けておられるのを見て感銘を受けました。ご指導ありがとうございました。(扇)

いつも私たち医局員にやさしく、細かなお心配りをしてくださる新井先生が、ご退官されるに際し、あらためて先生の存在の大きさ、大切さを痛感しています。先生のたくさんの業績を見習って、私もちゃんとした形成外科医になれるように、よりいっそう頑張ろうと思いました。(大竹)

今回、新井先生の業績を編集しながらその内容に驚くばかりでした。新井先生の歴史は、まるで日本の形成外科の歴史そのもののようです。何とか編集終了しましたが、誤植や洩れがないことを祈るばかりです。(千々和)

業績集の編集に携わり、改めて新井先生の偉大さを実感しました。先生に御教授いただいた数多くのことを忘れずに、今後とも技術を磨き努力していきたいと思います。これまで御指導いただきありがとうございました。(南部)

新井先生のこれまでの業績の数々、研修医の私にとっては気が遠くなるほどの内容です。新井先生にご指導していただいたのは、わずか半年という短い期間ではありましたが、これからの私にとってとても貴重なものであり続けると思います。(中村)

新井克志助教授退官記念業績集

発 行 新井克志助教授退官記念会

発行日 2002年3月

印刷所 (有) 研 文 社

〒359-0041

埼玉県所沢市中新井485-2

電話 042-942-1589

眼瞼脂腺癌の3例

中野峰生 新井克志 堀直博
寺畑信太郎 沖坂重邦

●特集／毛包性腫瘍

眼瞼脂腺癌の3例

中野峰生* 新井克志* 堀直博*
寺畑信太郎** 沖坂重邦***

要約：眼瞼脂腺より発生する脂腺癌は比較的まれな悪性腫瘍であり、なかでもツアイス腺に由来するものは非常にまれである。今回われわれは、臨床的、病理組織学的にツアイス腺に由来すると思われる症例を3例経験したので報告した。特に臨床的に眼瞼悪性腫瘍が疑われた場合には、生検により病理組織学的検査を行ない診断を確定すべきであることを再確認した。この際、基底細胞癌や扁平上皮癌の診断であっても、腫瘍を全摘した後もう一度腫瘍全体像を病理組織学的に再検討して、脂腺癌の可能性も念頭に入れ、必要に応じて脂肪染色も施行することが肝要であると考えられた。

I. はじめに

眼瞼脂腺であるマイボーム腺あるいはツアイス腺より発生する脂腺癌は、比較的まれな悪性腫瘍である¹⁾²⁾。その中でマイボーム腺由来の脂腺癌は比較的多いのに対し、ツアイス腺に由来するものは非常にまれである³⁾⁴⁾。今回われわれは、臨床的、病理組織学的にツアイス腺に由来すると思われる症例を3例経験したので、文献的考察を加えて報告する。

II. 症 例

症 例 1: 73歳, 男
初 診: 昭和63年10月4日
家 族 歴: 特記すべきことなし。
既 往 歴: 昭和35年痔核にて、昭和37年虫垂炎に

* Mineo NAKANO et al., 防衛医科大学校, 救急部形成外科 (主任: 三村一夫教授)
** Shintarou TERAHATA, 同大学校, 病理検査部
*** Shigekuni OKISAKA, 同大学校, 眼科学教室, 教授

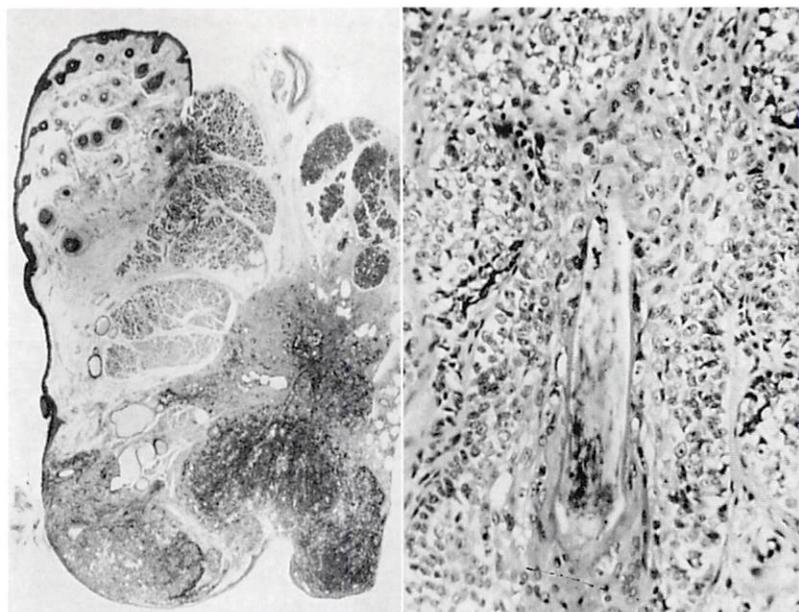


第1図 左下眼瞼腫瘍 (手術時の臨床像)

て手術をうける。昭和63年9月2日総胆管結石の診断で総胆管切開、胆嚢摘除術をうける。

現病歴: 昭和63年8月、総胆管結石にて某外科病院に入院中、左下眼瞼外側に疼痛・発赤を伴う小結節に気づくも、点眼液等を投与され様子を見ていた。退院後も腫瘍が増大するため当院眼科を紹介され、扁平上皮癌の疑いで当科に転科した。

現 症: 左下眼瞼外側に 5×7 mm 大で、黄白色調、弾性やや硬の腫瘍を認め、結膜面は凹凸不整で眼瞼縁に潰瘍面を形成している。表面皮膚とは可動性を有するが、眼瞼板との癒着ははっきりしな

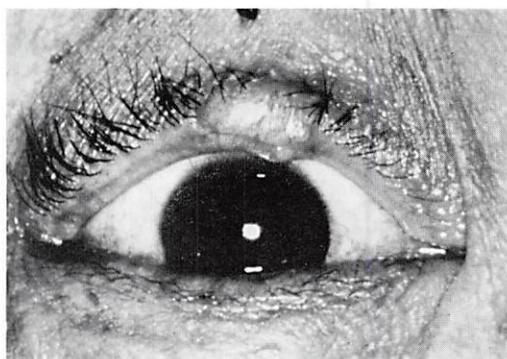


第2図 左：腫瘍弱拡大像（HE 染色）。腫瘍はツアイズ腺に局限している。
右：腫瘍強拡大像（HE 染色）。Differentiated type の脂腺癌

い。所属リンパ節は触知せず、一般検査成績でも異常は認めない。

治療および経過：10月13日、生検にて脂腺癌と診断し、10月28日腫瘍辺縁より5mm離して全摘し、欠損部は鼻中隔軟骨と鼻粘膜を移植した頬部皮弁で再建した⁵⁾（第1図）。術後1週目よりレンチナン4mgを2週に1回点滴静注し、6ヵ月間継続投与を行なった。術後1年1ヵ月を経過した現在、再発を認めない。

病理組織学的所見：生検時のHE染色標本では、腫瘍巣は皮膚と眼瞼結膜に挟まれた睫毛の毛嚢付近に局限し、瞼板は正常に保たれており、睫毛縁では腫瘍は表皮と連続性に増殖して潰瘍底を形成していた。また、腫瘍巣はエオジン好性に染まる薄い繊維性隔壁で分割される大小の充実性胞巣を形成していた。腫瘍細胞は異型性を示し、形状は円形、卵円形、多角形と不同で、胞体内には空胞をみるものが多い。また、腫瘍細胞の核も異型性が強くクロマチンに富み、核の大小不同および核分裂像もしばしば認められた（第2図）。以上の病理組織所見および臨床的、組織学的発生部位から、ツアイズ腺由来の分化型脂腺癌と診断した。なお、腫瘍組織像は典型的な脂腺癌であったため、脂肪染色は行なわなかつ



第3図 右上眼瞼腫瘍

た。

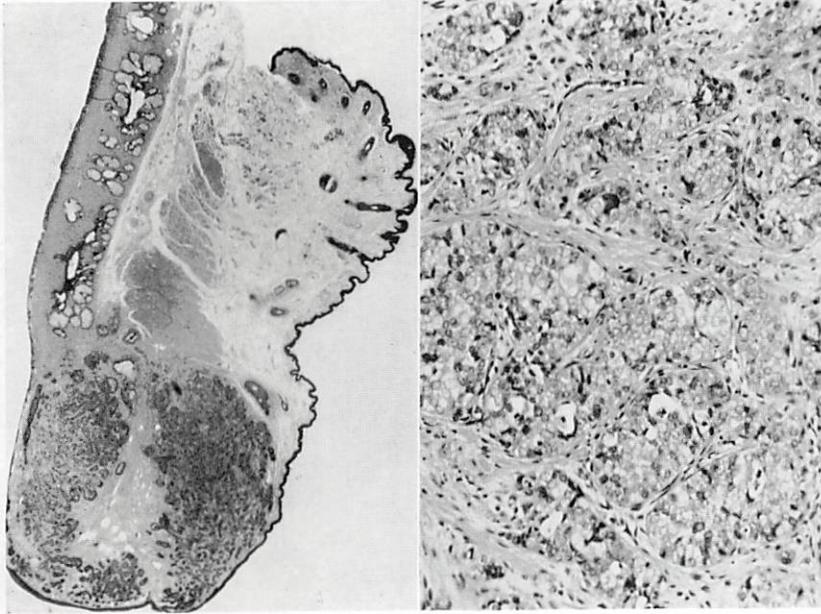
症例2：55歳、男

初診：昭和63年12月14日

家族歴：特記すべきことなし。

既往歴：30年来、慢性腎炎にて漢方薬（ツムラ八味地黄丸[®]）内服加療中。

現病歴：昭和63年6月頃より右上眼瞼の小結節に気づくも放置していた。その後、徐々に増大して異物感が強くなってきたため、某眼科を受診し11月



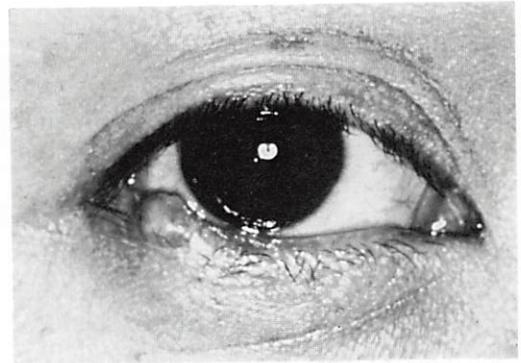
第4図 左：腫瘍弱拡大像 (HE 染色)。マイボーム腺は正常である。
右：腫瘍強拡大像 (HE 染色)。Basaloid type の脂腺癌

30日に生検を施行され、基底細胞癌の診断にて当院眼科を紹介され、12月14日当科を転科した。

現 症：右上眼瞼縁中央部に睫毛の脱落を伴う弾性硬、淡紅色調で5×6mm大の表面平滑な腫瘍を認め、結膜面への浸潤を認めない。触診上、表面皮膚と癒着しているが眼瞼板との癒着はない。所属リンパ節は触知せず、検査成績においても尿蛋白を認める以外、異常を認めない(第3図)。

治療および経過：昭和64年1月6日、腫瘍辺縁より5mm離して腫瘍を全摘し、右下眼瞼よりの反転皮弁(Mustardé法⁹⁾)にて上眼瞼欠損部を再建し、平成元年1月24日に皮弁の茎を切断した。術後1週目よりレンチナン4mgを2週に1回点滴静注して、術後11カ月を経過した現在、再発を認めない。

病理組織学的所見：腫瘍巣は眼瞼縁に限局しており、結膜への浸潤を認めなかった。腫瘍細胞は薄い繊維性隔壁で区切られた大小の索状あるいは小胞巣構造を形成し、周囲に浸潤性に増殖していた。腫瘍細胞の大部分は、大小不同を呈する類円形ないし紡錘形の異型性の強い濃染する核を有し、細胞質にやや乏しく、基底細胞に類似したものが比較的多く認められた。一部の腫瘍細胞の胞体は明調を呈し、脂腺への分化を示唆する部分もあったため(第4図)、脂肪染色は行なわなかった。これらの組織所見か



第5図 右下眼瞼腫瘍

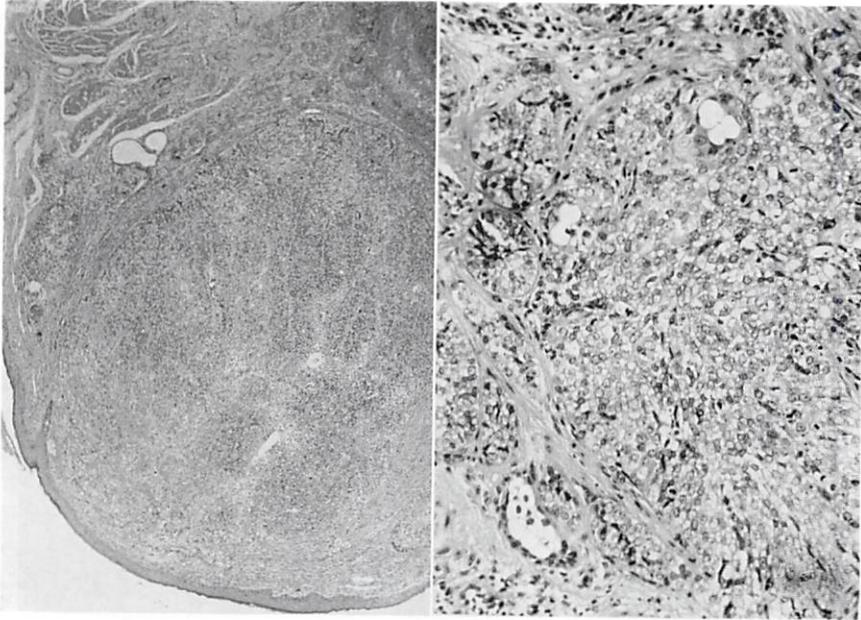
ら、ツアイス腺由来のbasaloid typeの脂腺癌と診断した。

症 例 3：40歳、女

初 診：平成元年3月8日

家族歴・既往歴：特記すべきことなし。

現 病 歴：昭和61年頃より右下眼瞼内側に2カ所、右下眼瞼外側にも1カ所小結節があるのに気づくも自覚症状がないため放置していた。その後も腫瘍は徐々に増大してきたため、昭和63年1月に某眼科医で右下眼瞼内側の2個の腫瘍を切除され、5月



第6図 左：腫瘍弱拡大像 (HE 染色)。腫瘍は一部筋層まで浸潤していたが、ほぼツアイス腺に限局している。
右：腫瘍強拡大像 (HE 染色)。Basaloid typeの脂腺癌

には右下眼瞼外側の腫瘍も切除され、病理組織診断は Meibom epithelioma であった。その後、右下眼瞼外側部位に再発を認めたが、自覚症状を欠くため放置していた。しかし、同部位に疼痛を伴うようになったため当科を紹介され受診。

現 症：右下眼瞼外側に 5×6 mm 大の表面平滑で、睫毛の脱落を伴う黄白調で弾性硬の腫瘍を認め、結膜面への浸潤を認めない。触診上、表面皮膚とは癒着しているが、眼瞼板との癒着は認められない。所属リンパ節は触知せず、検査成績においても異常所見はない (第5図)。

治療および経過：平成元年3月9日生検にて脂腺癌と診断し、3月24日腫瘍辺縁より 5 mm 離して腫瘍を全摘した。欠損部は鼻中隔軟骨と鼻粘膜を移植した頬部皮弁で再建した。しかし、病理組織検査にて腫瘍組織の残存が疑われたため、4月18日迅速凍結組織検査を実施しながら再度拡大切除を行なった。術後1週目よりレンチナン 4 mg を2週に1回点滴静注し、合わせてテガフル 600 mg/day を内服中で、術後7カ月を経過した現在、再発を認めない。

病理組織学的所見：眼瞼皮膚は腫瘍の浸潤を免れているものの、腫瘍は眼瞼縁から一部筋層にまで浸

潤していた。クロマチン濃度 N/C 比の高い基底細胞様の腫瘍細胞が大半を占め、大小の胞巣を形成して増生していた。腫瘍胞巣の中心付近では一部の腫瘍細胞の胞体はやや明るく、脂腺への分化を示していた (第6図)。また、脂肪染色陽性であった。以上より、ツアイス腺由来で basaloid type の脂腺癌と診断した。

III. 考 按

眼瞼腫瘍は、外観上他人の目につきやすいことや本人の整容的見地から、早期に発見されて医療施設に受診し適切な処置を受けることが多い。しかしながら慢性の経過を辿り不適切な処置をして、かなり進行してから受診するものも少なくない。特に眼瞼悪性腫瘍の場合は、適切な診断を確立して早期に治療を開始しなければならないので細心の注意を払いながら診断する必要がある。個々の悪性腫瘍は比較的特徴的な臨床像を有することが多いため、臨床診断でもある程度の精度をもって適切な診断を下せるが、正確な診断を期すためには、通常、生検ないし摘出した組織の病理組織検査によらねばな

らない^{1)~4)7)~15)}。眼瞼悪性腫瘍には基底細胞癌、扁平上皮癌、脂腺癌、悪性黒色腫などがある。このうち基底細胞癌が最も多いとされるが、欧米ではまれとされている脂腺癌も、アジアでは比較的多くみられるようである¹⁾³⁾⁷⁾¹¹⁾。

脂腺癌の好発部位は上眼瞼で、女性に多いとされ、好発年齢は50~70歳前後の高齢者に発生し、腫瘍の色調は淡紅色あるいは黄白色を呈することが多く、大部分のものは弾性硬の結節であるが、ときに潰瘍を形成することもある²⁾⁴⁾⁷⁾。脂腺癌は眼瞼腫瘍のわずか数%で比較的症例が少なく、またその臨床像は特徴に乏しく、基底細胞癌、扁平上皮癌、非定型の霰粒腫、麦粒腫、乳頭腫、眼窩腫瘍などに類似することがあるため、これら疾患との鑑別が重要となる。また、腫瘍が粘膜上皮内へ胞巣状に浸潤すると反復性の眼瞼結膜炎、眼瞼縁炎の症状を示すこともあり、このような場合、脂腺癌がないかどうか常に考慮にいれておく必要がある。一方、眼組織への過度の放射線治療をした後に、脂腺癌が発生する場合があるので注意を要する^{2)~4)8)9)12)}。

このように、臨床所見のみでは脂腺癌と診断するのはしばしば困難であり、病理組織診断ではじめて脂腺癌の診断が確定される場合も多い。しかしながら、病理組織学的にも基底細胞癌や扁平上皮癌との鑑別が難しい症例も少なくなく³⁾⁴⁾⁸⁾⁹⁾¹²⁾、本症例2および3でも基底細胞癌との異同が問題となった。眼瞼腫瘍を診断するには常に脂腺癌の可能性も考慮し、必要に応じて脂肪染色も施行することが重要であると思われる^{1)~4)7)~16)}。Chuoら¹⁾による179例の眼瞼脂腺癌の検討では、脂腺癌は、1) differentiated type, 2) squamoid type, 3) basaloid type, 4) adenoid type, 5) spindle cell type に分類して、その鑑別および予後などについて詳細な報告をしている。この分類に従うと、症例1は differentiated type に近いのに対し、症例2, 3では basaloid type に相当するものと考えられた。

眼瞼の脂腺癌はマイボーム腺、ツアイス腺、

皮脂腺、涙丘や眉毛の脂腺などから発生するとされているが、実際には病理組織学的に正確な原発巣を決定することは困難であることが多い³⁾⁸⁾¹²⁾¹⁵⁾。われわれが経験した症例では、表面皮膚との癒着はあるが眼瞼板との癒着がない点、また組織学的にも瞼板は正常に保たれているが、睫毛近傍に腫瘍が限局している点および表皮と連続性に増殖している傾向が強いため、ツアイス腺由来の脂腺癌と考えた⁷⁾¹²⁾¹³⁾¹⁵⁾。

本腫瘍は局所再発を起こしやすく、隣接組織への連続的浸潤だけでなく症例の20%前後に転移を起こすので、治療にあたっては腫瘍を含む広範囲の外科的切除術が必要となる¹⁾³⁾⁴⁾⁹⁾¹²⁾。特に結膜上皮中に浸潤して Pagetoid spread を呈する腫瘍の場合には脂腺癌の可能性が高く、かつ予後が悪いとされているため、早期に適切な治療が開始されるべきである⁴⁾⁸⁾¹²⁾。

症例1, 2では腫瘍辺縁から5mm離して眼瞼を全層で切除し、切除組織断端に腫瘍細胞を認めず、適切な切除範囲であった。しかし症例3では、同様の外科的切除をしても腫瘍を完全に切除できなかった。これらの臨床経験から考慮すると本腫瘍は腫瘍の境界が必ずしも明瞭でないため、術中に迅速凍結組織検査を行ないながら適切な切除範囲を決定するのが理想的であると考えられる⁹⁾¹⁰⁾¹⁶⁾。その他の治療法として放射線療法・冷凍凝固療法・化学療法などの補助療法があるが、高齢者で全身状態の悪化などの理由により十分な外科的切除のできない場合や、再発を繰返す場合、転移を来した場合などに考慮されるべきであろう⁴⁾¹³⁾¹⁴⁾。

本症例は日本形成外科学会第150回東京地方会において報告した。

(1990年3月12日受理)

文 献

- 1) Chuo N et al: *Int Ophthalmol Clin*, **22**: 23-61, 1982
- 2) Sturgis MD, Oshinskie LJ: *J Am Optom Assoc*, **58**: 307-315, 1987

- 3) Boniuk M, Zimmerman LE: Trans Am Acad Ophthalmol Otol, 72: 619-642, 1968
- 4) Pang P, Rodrigues-Sains RS: J Dermatol Surg Oncol, 11: 260-264, 1986
- 5) Mustarde JC: Repair and Reconstruction in the Orbital Region, 2nd ed, Churchill Livingstone, Edinburgh, 1980, p 92
- 6) Mustarde JC: Repair and Reconstruction in the Orbital Region, 2nd ed, Churchill Livingstone, Edinburgh, 1980, p 130
- 7) 沖坂重邦: 眼科, 27: 141-149, 1985
- 8) Wolfe JT et al: Am J Surg Pathol, 8: 597-606, 1984
- 9) Doxanas MT, Green WR: Arch Ophthalmol, 102: 245-249, 1984
- 10) Ratz JL et al: J Am Acad Dermatol, 14: 668-673, 1986
- 11) Ni C, Kou PK: Jpn J Ophthalmol, 23: 388-401, 1979
- 12) Rao NA et al: Hum Pathol, 13: 113-122, 1982
- 13) 末木博彦ほか: 臨皮, 36: 1003-1009, 1982
- 14) Hendley RL et al: Am J Ophthalmol, 87: 206-209, 1979
- 15) 小栗正己ほか: 眼紀, 33: 1514-1524, 1982
- 16) Folberg R et al: Am J Ophthalmol, 103: 817-832, 1987

切手で見る 皮膚科学

オゾン層と皮膚悪性腫瘍

姫路赤十字病院皮膚科部長
小野公義

フロンガスがオゾン層を破壊するということが論議されている。フロンガスは日常の生活でもスプレーとして使用されており、痛み止め、制汗剤、殺虫剤、整髪剤などのそれに含有されていて、さらには冷却用のガスとして冷蔵庫にも使われている。この状態を規制しないとオゾン層が破壊され、その結果、地表の紫外線を増加させ、基底細胞腫、有棘細胞癌、悪性黒色腫が増えるということで世界が注目しているわけである。

しかし、これだけ話題になる一方で、無原則な日光浴、裸体主義が無批判に行なわれているのはどうしたことであろうか。フロンガスだけでなく、もう少し広い視野で紫外線と皮膚の健康との関係を検討していく必要があるのではあるまいか。

ちなみにオゾン層については、コンコルドの飛行の際にも、その是非が論議されたことを知っておられる



方も多いと思う。

切手はトンガ属領ニウアフォオウ島、1987年発行の殺虫剤の切手である。